

平成29年度  
第8回友好交流都市重慶市親善訪問  
及び中国文化・行政視察団  
報告書



平成29年11月14日(火)～11月19日(日)

水戸市

公益財団法人水戸市国際交流協会

# 目 次

|                 |    |
|-----------------|----|
| 団長あいさつ          | 1  |
| 副団長あいさつ         | 2  |
| 団員名簿            | 3  |
| 日程表             | 4  |
| 経路図             | 5  |
| 行動の記録           | 6  |
| 公式行事の記録         | 16 |
| 団員報告書           | 26 |
| 資料編             |    |
| (1) 水戸市と重慶市の交流  | 53 |
| (2) 友好交流都市提携合意書 | 56 |
| (3) 訪問都市プロフィール  | 57 |
| (4) 訪問団員募集要項    | 58 |



## 団長あいさつ

水戸市長 高橋 靖

第8回友好交流都市重慶市親善訪問及び中国文化・行政視察団の団長として、15名の団員の皆様とともに重慶市等を訪問しました。相互理解と友好親善を深め、国際的視野にたった人材の育成を目指すとともに、市民相互の交流を促進するという所期の目的を無事達成できましたことは大変喜ばしく、団員の皆様のご協力と関係者の皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

重慶市訪問は、私自身、3回目で6年ぶりとなりました。今回は、急成長を続ける中国経済の現状を期待しての訪問でありましたが、その期待を裏切ることなく、6年前にも増して様々な都市政策が動き出していることに大変驚きました。

今回の訪問では、重慶市企画展覽館（未来館）や重慶貿易開発区を視察することで、ますます発展する中国地方都市の今後の都市政策や経済政策の将来展望、貿易産業の現況などを学ぶことができました。また、四川外国語大学日本語学部や重慶市人民政府を訪問した際には、盛大な歓迎をいただくとともに中国の教育事情や今後の友好関係の構築などについて、有意義な意見交換を行うことができました。

著しい経済成長を続ける重慶市や世界遺産である兵馬俑坑をはじめ多くの歴史文化財を有する西安市に滞在し、各都市の持つ活力や魅力を肌で感じることは、歴史、自然を生かした魅力あるまちづくりを進めている水戸市にとりまして大変参考となるものでした。

6日間という限られた日程ではありましたが、訪問先の皆様の温かな歓迎と献身的なおもてなしにより、団員それぞれが友好と親睦を深め合うとともに、国際人としての認識を一層高めることができたものと思っております。

今回の訪問を終え、これまで多くの先人たちが培い、築き上げてきた両市の絆の強さを実感するとともに、学生や市民間の親善交流をより一層進めていきたいと強く感じたところです。

結びに、両市の友好親善関係がますます深められますとともに、両市のさらなる発展を祈念いたしまして、あいさついたします。



## 副団長あいさつ

水戸市議会副議長 木本 信太郎

平成29年度第8回友好交流都市重慶市親善訪問及び中国文化・行政視察団の副団長という大役を仰せつかり、11月14日から19日までの6日間にわたって、重慶市並びに西安市を訪問してまいりましたが、高橋団長をはじめ、団員の皆様方のご協力によりまして、無事役目を果たすことができましたことに、心から感謝申し上げます。

重慶市とは、昭和60年3月に、孫平化中日友好協会副会長の水戸市訪問を契機として交流が始まり、友好交流の実績を積み重ねた後、平成12年に両市の友好と発展を願って友好交流都市となりました。

それ以降、文化、教育、スポーツをはじめ、各分野にわたって広範な交流を積極的に推進しているところです。

この度の重慶市親善訪問では、重慶市人民政府の劉副市長をはじめ、関係者の皆様方の心温まる歓待を受けるとともに、歓迎レセプションでは、それぞれの立場を超えて意見交換を行うことができ、両市の親善交流を深める上で大いに意義あるものとなりました。

また、四川外国語大学の日本語学部の学生との交流においては、語学習得を通じて日本の文化や習慣を懸命に理解しようとする学生の姿勢に感銘を受けるとともに、今後は若い世代との交流を広げていくことも、友好交流を深めていく上で肝要と感じた次第であります。

今回の親善訪問で重慶市と水戸市の友好交流都市としての絆を一層深めることができたものと実感するとともに、今後も、この親善訪問をはじめ、様々な交流活動が継続され、両市の友好親善がより一層進展することを念願しております。

終わりに、今回の訪問団にご参加いただきました市民の皆様、重慶市関係者の皆様、そして、当事業の推進にご尽力をいただきました関係各位に対しまして心から感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

# 団員名簿

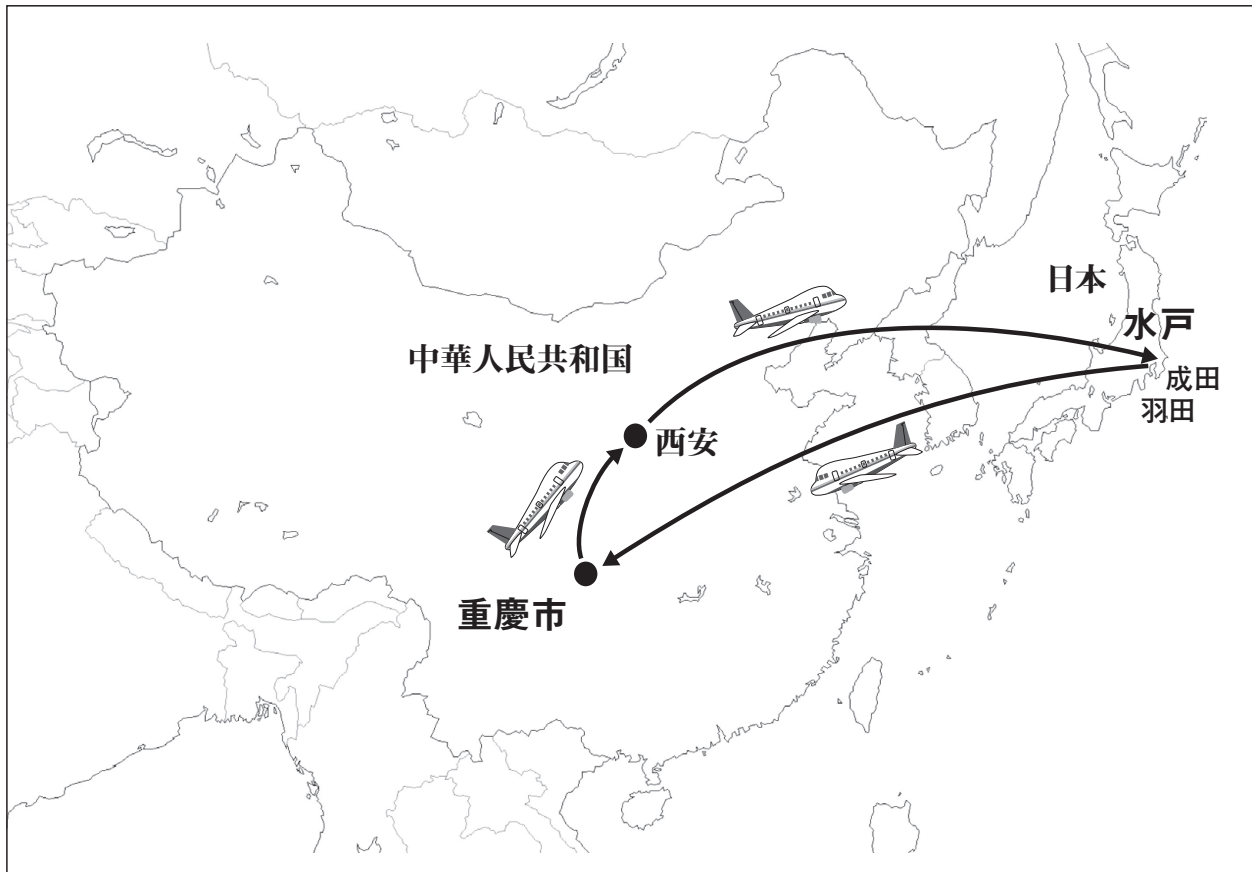
(順不同・敬称略)

| No. | 役職等 | 氏名     | 性別 | 備考            |
|-----|-----|--------|----|---------------|
| 1   | 団長  | 高橋 靖   | 男  | 水戸市長          |
| 2   | 副団長 | 木本 信太郎 | 男  | 水戸市議会副議長      |
| 3   | 団員  | 秋山 恒典  | 男  | 市民            |
| 4   | 団員  | 川上 美智子 | 女  | 市民            |
| 5   | 団員  | 川又 豊彦  | 男  | 市民            |
| 6   | 団員  | 郡司 由紀子 | 女  | 市民            |
| 7   | 団員  | 寫 健    | 男  | 市民            |
| 8   | 団員  | 高阿田 啓壽 | 男  | 市民            |
| 9   | 団員  | 野田 弘行  | 男  | 市民            |
| 10  | 団員  | 渡辺 静江  | 女  | 市民            |
| 11  | 団員  | 渡辺 政明  | 男  | 水戸市議会議員       |
| 12  | 団員  | 中庭 次男  | 男  | 水戸市議会議員       |
| 13  | 団員  | 堀江 恵子  | 女  | 水戸市議会議員       |
| 14  | 随員  | 関谷 勇   | 男  | 水戸市議会事務局総務課長  |
| 15  | 随員  | 王 偉 亜  | 男  | 水戸市国際交流協会事務局長 |
| 16  | 随員  | 竹内 繁   | 男  | 水戸市国際交流協会     |
| 17  | 添乗員 | 松井 きよみ | 女  | 株式会社 J T B 関東 |

# 日 程 表

| 日次                | 月日(曜)         | 地 名     | 現地時間  | 交通機関   | 行 程   |
|-------------------|---------------|---------|-------|--------|---|
| 1                 | 11月14日<br>(火) | 水戸市役所発  | 09:00 | 専用車    | 羽田空港へ<br>空路、上海へ(所要約2.4時間)   |
|                   |               | 羽田空港着   | 11:30 | MU9816 |   |
|                   |               | 東京(羽田)発 | 13:30 |        |   |
| .....時差：-1時間..... |               |         |       |        |   |
|                   |               | 上海着     | 15:55 | MU5431 | 空路、重慶へ(所要約2.45時間)   |
|                   |               | 上海発     | 9:15  |        |   |
|                   |               | 重慶着     | 22:25 | 専用バス   | 着後、ホテルへ <重慶泊>   |
| 2                 | 11月15日<br>(水) | 重慶      | 9:00  | 専用バス   | 【終日】重慶市親善プログラム(公式行事)  |
|                   |               |         |       |        | 9:10 重慶市企画展覧館(未来館)視察  |
|                   |               |         |       |        | 10:45 重慶貿易開発区の視察<br>《昼食》  |
|                   |               |         |       |        | 14:00 四川外国語大学日本語学部<br>の学生との交流(～16:00)   |
|                   |               |         |       |        | 17:30 重慶市人民政府への表敬訪問<br>18:00 重慶市人民政府による歓迎会<br><重慶泊>   |
| 3                 | 11月16日<br>(木) | 重慶      | 9:00  | 専用バス   | 【終日】重慶市内視察  |
|                   |               |         |       |        | ・磁器口古鎮<br>・鵝嶺公園<br>・三峡博物館<br>・人民広場, 人民大礼堂 <重慶泊>   |
| 4                 | 11月17日<br>(金) | 重慶      | 午前    | 専用バス   | 重慶市内視察<br>(湖広会館、洪崖洞民族風情街)   |
|                   |               |         | 14:00 | MU2262 | 空港へ   |
|                   |               | 重慶発     | 16:30 |        |   |
|                   |               | 西安着     | 18:05 | 専用バス   | 空路、西安へ(所要約1時間20分)<br>夕食後、ホテルへ <西安泊>   |
| 5                 | 11月18日<br>(土) | 西安      | 終日    | 専用車    | 西安視察<br>・兵馬俑坑 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">世界遺産</span><br>・青龍寺<br>・西安城壁 <西安泊> |
| 6                 | 11月19日<br>(日) | 西安空港着   | 5:30  | 専用車    | 空港へ<br>空路、東京(成田)へ(所要約7時間55分)  |
|                   |               | 西安発     | 6:00  | MU0521 |   |
|                   |               |         | 8:00  |        |   |
| .....時差：+1時間..... |               |         |       |        |   |
|                   |               | 東京(成田)着 | 15:55 | 専用車    | 着後、水戸へ  |
|                   |               | 成田空港発   | 17:00 |        |   |
|                   |               | 水戸市役所着  | 18:30 |        |   |

【経路図】



【宿泊先】

重慶 : HARBOUR PLAZA CHONGQUING  
重慶海逸酒店 (ハーバープラザ重慶)

西安 : GRAND NOBLE HOTEL X'IAN  
グランドノーブルホテル西安

## 行動の記録



四川外国語大学にて



1日

## 11月14日火 水戸市⇒重慶市

- 8:30 水戸市役所 集合  
8:50 水戸市役所 出発  
11:30 羽田空港 到着  
13:30 羽田空港 離陸(MU9816便)  
15:00 昼食【機内食】  
----- <時差：-1時間>  
15:55 上海虹橋空港 到着  
19:15 上海発(MU5431)  
20:00 夕食【機内食】  
22:25 重慶着【車内で夜食配布】  
23:20 ホテル着  
(ハーバープラザ重慶)



平成29年度(第8回)友好交流都市重慶市親善訪問団及び中国行政・文化視察団は、平成29年10月20日(金)に水戸市国際交流センターにおいて結団式を行い、11月14日に出発の日を迎えた。建設が進む市庁舎を背に、村田進洋市議会議長をはじめ多くの関係者の方々の見送りを受けながら出発した。今回は羽田からの出発となり、途中多少の渋滞はあったものの、時間通りに空港に到着した。

羽田から重慶までは、約9時間の長丁場である。上海では入国手続きと荷物の預け直し、更には出発ロビーまでの移動に旅行会社の手配したバスを使うなど、早くも訪れた試練に疲労しつつも、何とか無事に乗り継ぎを完了。重慶への到着は深夜であったにもかかわらず、唐文副主任をはじめとする重慶市人民政府外事弁公室の方々のお出迎えを受け、ホテルへと向かった。



11月15日水

## 重慶市：市内視察、表敬訪問、歓迎レセプション

- 6:30 ～ 朝食
- 9:00 ロビー集合、出発
- 9:30 重慶市企画展覽館を視察(～ 10:45)
- 11:30 重慶市貿易開発区を視察(～ 12:20)
- 12:30 昼食【「重慶会館」】
- 13:15 四川外国語大学を視察、学生との意見交換(～ 16:30)
- 17:50 重慶市人民政府表敬訪問  
【「WUDU HOTEL(霧都賓館)」にて】
- 18:30 歓迎レセプション  
【「WUDU HOTEL(霧都賓館)」にて】
- 19:30 公式行事終了
- 20:00 ホテル着



朝食はバイキング形式だった。パンやシリアル等の洋風、中華粥などの中華風の朝食以外に、近年のブームを反映してか、納豆なども置いてあった。

最初の訪問先は重慶市企画展覽館(未来館)。建物周辺で開発が進んでおり、建設中のビルの中をバスで通って、企画展覽館前に到着した。現在はリニューアルのため休館中だが、訪問団のために特別に開けてくれたとのことである。

ジオラマや、人民大礼堂の模型、前後の窓に内蔵したモニターに実際の運行ルートの映像を表示し、モノレールの乗車体験ができるシミュレーターなどの大型展示が設置されていた。また、大ジオラマの周囲3面に展開された液晶画面に映し出される映像や、スクリーンの前に立って手を動かすと映像に変化を与えることができる映像作品、画面の前で手を動かすだけでボタン等を使わずに検索ができるデータベースなど、先端技術を使った大掛かりな展示は見ごたえ十分だった。「一帯一路」に関する説明の中で、重慶を起点とする鉄道がドイツにまで達しているとのこと、驚きであると同時に、今後世界経済の中で中国・重慶の重要性がますます大きくなることを感じさせた。

次の訪問地である貿易開発区では、まずはジオラマの前で、同地区の基本情報、役割、現況と目標、主な業種と代表的な企業等についての説明があった。次に、製品の展示ルームに移動し、重慶の特産である竹を利用した電化製品や生活用品などの新製品の展示を見た。その後、重慶コーヒー交易中心に移動し、実際にコーヒーを味わいながら、世界中から輸入され、製品化されているコーヒーの展示を見るなどした。

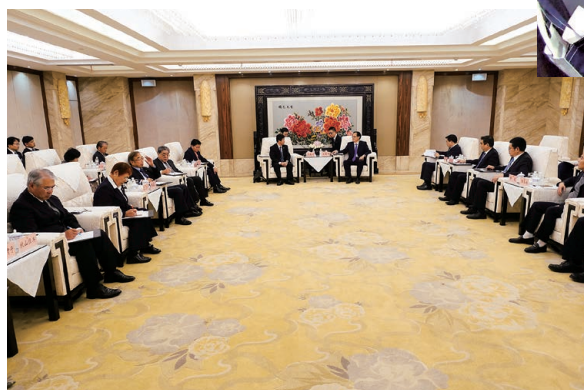
昼食は、今回の行程で初となる重慶料理だった。辛さは抑えられていたため、日本人でも食べられないということはないが、食べ残すことを前提に珍しい種類と量の料理が出されるため、とても食べ切れなかった。

午後は、最初に重慶外国語大学を視察した。2年前と同様、電光掲示板に歓迎のメッセージが表示されていた。まずは校史館の展示を見た後、学生たちが生活する寮の建物の間を通り、図書館前の広

場で記念撮影をした。校舎内の交流会場に移り、学長と市長がそれぞれ挨拶を行った後、学生との意見交換会となった。水戸市議の皆さんがいくつか質問を用意し、それに何人かの学生が答えるという形で進行した。学生の日本語レベルは総じて高く、大学関係者側の通訳も学生が行っていたくらいなのだが、質問に答えた学生のうちの1人の男子学生は、緊張のためか、非常につたない日本語になってしまっていたのが印象的だった。女子学生の割合が多いこの大学の中でも日本語学部は特に女性の比率が高いとのことだが、中国国内では文科系分野のみならず理科系分野でも女性の活躍が顕著であり、習得する力は女性の方が高いことが根底にあるのではないかとある教員の方は話していた。悪い意味でそれを裏付けることになってしまった男子学生だが、明るい性格であり、ムードメーカーなのだろう。今後の活躍に期待したい。

重慶市人民政府への表敬訪問は、政府系のWUDU HOTELの一室にて行われた。まずは両市関係者の紹介があり、続いて重慶市の劉桂平副市長、水戸市の高橋靖市長の挨拶が行われた。最後に、両市の贈呈品交換が行われた。

同ホテル内で、場所を移して歓迎レセプションが行われた。巨大な円卓が設置され、全員分の名札が置かれていた。重慶市側の列席者は、李謙重慶市副秘書長、江衛寧市文化委員会副主任、唐文外事弁公室副主任、李小川四川外国語大学副校長の4名。李謙氏の挨拶の後、乾杯が行われた。料理は非常に上品で洗練されており、重慶の代表的な料理が少量かつ一人分ずつ器に盛られて運ばれてきた。器が積み重なるようなこともなく、一品食べ終わると次の一品、というように、どちらかというトランス料理のようなスタイルだった。李小川氏は美術の先生で、ボールペンの一筆書きを披露し、希望する団員のメニュー裏に描くなど、交流が行われていた。



3  
日目

11月16日木

## 重慶市：市内視察

- 6:30 ～ 朝食  
9:20 集合・出発  
10:00 磁気口古鎮見学(～ 11:30)  
12:00 三峡博物館見学(～ 12:40)  
13:00 昼食  
【博物館近くの「渝匯酒店」にて重慶火鍋】  
(～ 14:10)  
14:30 「鵝嶺公園」見学(～ 15:30)  
18:00 夕食  
【各自休憩後、ホテル近くの「渝都酒店」にて】  
(～ 19:00)  
20:00 オプションツアー



この日は、朝から重慶市内の施設を視察。まずは、中国の古い町並みを再現した観光地、「磁気口古鎮」を訪れた。昔の中国にタイムスリップしたかのような、雰囲気十分の街路が縦横に延びるが、軒を連ねるのは様々な土産物店や飲食店。軒先では三国志の張飛や京劇風の衣装をした店員の呼び込みや、店頭での餅つきや麵づくりなどを披露するなど、各店舗とも工夫を凝らしたパフォーマンスで観光客にアピールしていた。

続いては三峡博物館を見学。広場を挟んで人民大礼堂を望む、巨大な博物館であり、重慶・三峡地域に関する自然・歴史・文化・民俗等の膨大な展示があり、1日かけてもすべてを見ることは難しいと思われる。入場時のセキュリティーチェックはあるものの、入場料自体は無料であり、その建設・運営維持費用も考えると、中国政府の文化行政への力点が伺われる。わずかな滞在時間ではあったが、実物大の建物の再現や、剥製、文化財など、工夫を凝らしたその展示の一端を垣間見ることができた。

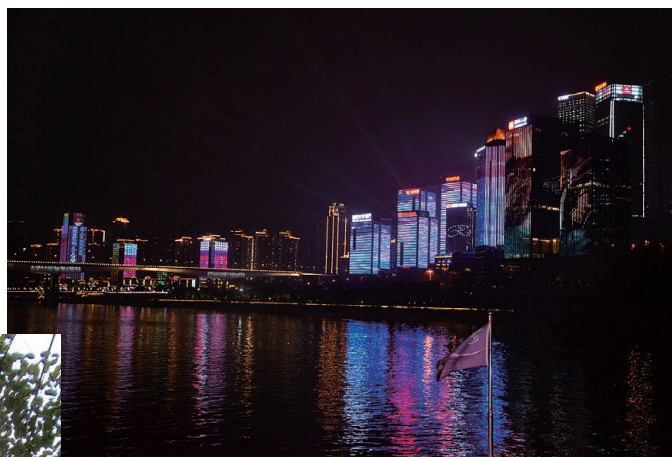


昼食は、名物の重慶火鍋を堪能。鍋に入った汁に肉や野菜、キノコ、餅などの具材を入れ、煮込んで食べるが、汁はこの地方独特の麻辣風味で、その辛さで有名である。辛い、辛い汁と辛くない汁の2種類が用意されていたため、好みに応じて食べることができた。

昼食後、重慶市民の憩いの場である鵝嶺公園を見学した。鵝嶺公園には、「瞰勝楼」と呼ばれる展望台や、重慶の友好都市である広島市が寄贈した日本庭園「広島園」など

があり、園内を散策したり、展望台の上から重慶の町を一望するなど、思い思いの時間を過ごした。

夕食は、ホテルからほど近いビルの高層階にあるレストランを利用した。階全体が少しずつ回転し、360度の夜景を楽しみながらの食事となった。



**4**日目**11月17日金****洪崖洞、湖広会館、移動：重慶～西安**

- 6:30 ～ 朝食
- 7:35 ホテル発
- 9:10 洪崖洞見学(～ 10:10)
- 10:15 湖広会館見学(～ 11:00)
- 11:20 昼食【「広場賓館」にて】(～ 12:20)
- 13:10 空港着、チェックイン
- 17:15 重慶発(MU2262便)
- 18:30 西安着
- 19:00 夕食【空港内「空港自助餐庁」にて】  
(～ 20:00)
- 21:15 ホテル着



この日は、午前中は重慶市内見学、午後は空路西安へ移動を行った。

最初に、磁器口同様、古い町並みを再現したショッピング施設である洪崖洞を見学した。磁器口が平面に展開しているのに対し、洪崖洞は切り立った崖沿いに垂直に建てられており、立体的にそそり立つ建築群は、「千と千尋の神隠し」の風景に似ているとも言われ、壮観であった。建物内には土産物店や劇場、飲食店等があった。1時間ほどの自由時間となり、見学や土産物店でのショッピングを楽しんだ。

続いて、中国に現存する最も大きな会館建築群である湖広会館を見学した。禹王宮などの建築のほか、四川への移民の歴史に関する展示を見学した。

昼食後、空港へ。チェックイン後、自由時間となり、搭乗ロビーでの集合となった。全員、迷うことなく到着したものの、飛行機の遅延のため、予定より30分遅れての搭乗、45分遅れての離陸となった。それでも西安への到着は、20分程度の遅れで済んだ。

空港のレストランで夕食後、バスへ乗車するために屋外へ。西安ではスモッグがひどく、埃っぽさがマスクなしでは苦しいレベルだった。中国ではPM2.5の被害が取りざたされているが、その片鱗を味わうことになってしまった。幸いなことに、翌日以降は、スモッグはすっかり晴れてしまった。

5  
日目

11月18日(土)

## 西安：兵馬俑坑、青龍寺、城壁

- 6:30 ～ 朝食
- 8:20 集合、出発
- 10:30 兵馬俑坑見学(～ 11:30)
- 11:40 ミュージアムショップにて自由行動  
(～ 12:00)
- 12:00 昼食  
【ミュージアムショップ2階のレストランにて】  
(～ 13:00)
- 15:10 青龍寺遺跡見学(～ 16:20)
- 17:00 西門・城壁見学(～ 17:40)
- 18:30 夕食【「天龍宝蔵素食館」にて精進料理】  
(～ 19:50)
- 20:30 ホテル着



午前中は、兵馬俑坑を見学。博物館の展示を見た後、1号坑を見学。広大な発掘現場上を巨大な建屋が覆っており、発掘坑内に無数の兵馬俑が並べられた状態で展示されているものを、建屋の壁際の通路から見下ろす形となっていた。多くの観光客が見学しており、のぞき込むのも困難なほどだった。整然と並んだ兵士の隊列が幾重にも並び、延々と続いているのが遠目に見える。それも、表に出ているのはごく一部であり、土の下には更に多くの兵士たちが眠っている。秦の始皇帝の当時の権力をまざまざと見せつけられる。続いて発掘中の2号坑の様子と、発掘された完全な兵馬俑の展示を見た後、ミュージアムショップで自由時間を取り、同じ建物にあるレストランで昼食をとった。

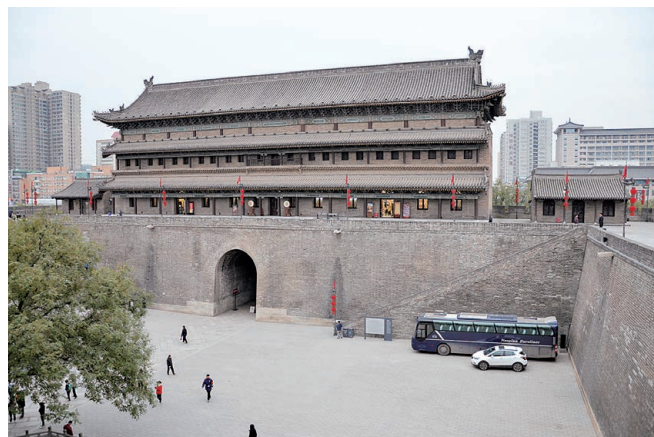
昼食後、唐代に空海が留学し、真言密教を学んだ青龍寺遺跡を見学した。かつての青龍寺はなく、日中の有志により再建されていた。空海と空海が教えを受けた恵果に関するモニュメントや展示、寺の再建に尽力した日本の寺々の名前を列記した記念碑などがあつた。また、空海ゆかりの地であること



から、四国八十八か所「ゼロ番札所」として名乗りを上げており、そのモニュメントなども設置されていた。やはり日本人の訪問者が多く、中国人の場合は何か願い事がある場合にお参りするとのことだったが、唐代のいにしえからの日中両国人の文化交流の足跡が現代にまで形として残っているということには感慨を禁じ得ない。

最後に、シルクロードの出発点である西安の西門と城壁を見学した。かつては西域に旅立つ人に別れを告げる場であり、ここで見送ったという。巨大な門と一体となった城壁の上に上ることができ、レンタサイクルで城壁を走る観光客も見受けられた。自由時間後、集合し、夕食へ。

夕食は、肉を使用しない精進料理の店だった。今回の訪問団最後の夕食であり、団長、副団長から挨拶をいただいた後、食事が始まった。食事は疑似肉を使っており、言われなければ精進料理とはわからないようなボリューム感で、満足度は高かった。中国滞在の最後を飾るにふさわしい料理だった。







11月19日(日)

帰国日：西安～水戸市

- 5:30 ロビー集合
- 5:40 出発
- 6:10 空港到着、チェックイン
- 8:20 西安発(MU0520)
- 10:20 上海着・出国手続き
- 12:00 上海発
- 13:00 昼食【機内食】
- <時差：+1時間>
- 15:30 成田国際空港 到着
- 16:20 成田国際空港 出発
- 18:30 水戸市役所 到着



出発時間が早朝のため、朝食はホテルで用意された弁当となった。内容はサンドイッチ、パン、ヨーグルト、ポテトチップス、ゆで卵、りんごであったが、特に皮をむいていないりんごとゆで卵は日本人にはハードルが高く、それ以外にも日本では見慣れない組み合わせであった。バスの中で口にするも、完食は難しかった。

本日は西安を出発後、上海にて出国手続き後、成田へ向かう。今回は荷物の預け直しがないものの、やはり大変であった。西安発の飛行機の到着が遅れたため、搭乗・出発が遅くなった。その影響もあってか、上海到着後は東京行の旅客の出国手続きを優先的に受け、手続き後は10分ほどで搭乗となった。そのため、お土産を買う時間もなかった。西安でも早朝で空港内の店舗は開店していなかったため、手元に人民元が残っていても、使いきることはできなかった。

成田到着後はスムーズに入国手続きを済ませ、バスに乗車。途中渋滞はあったものの、水戸市役所には予定通り到着した。日が沈み暗くなる中、お出迎えいただいた多くの関係者やご家族の皆様へ感謝しつつ、それぞれの家路についた。



## 公式行事の記録



重慶市人民政府表敬訪問

## 四川外国語大学 懇談会

### 【李小川 副学長】<通訳：陳可冉 日本語学部副学部長>

先ほどは校史館をご覧いただきましたが、今度は交流に移りたいと思います。季節としてはもう冬になりましたけれど、秋の名残というか、爽やかな季節の中、高橋市長をはじめとする代表団の皆様を四川外国語大学にお迎えできて、大変光栄に思います。

四川外国語大学を代表し、李克勇先生よりご挨拶を申し上げます。

### 【李克勇 学長】<通訳：廖昌佳さん(学生)>

尊敬する高橋靖市長、尊敬する木本信太郎副議長、水戸市議員、市民代表の皆様、ようこそお越しいただきました。日中国交正常化45周年という節目に重慶市友好交流都市であります日本水戸市の皆様からご訪問いただき、自然に包まれる四川外国語大学でお会いできましたことをこの上なく光栄に存じます。学生・教職員一同に変わりました日本からの皆様を衷心より歓迎申し上げます。先ほどこの学校の昔の博物館をご案内しましたので、少し紹介します。四川外大は1950年に創立され、中国西南地域における外国語人材育成の橋頭堡であり、外国語専門分野、対外貿易、国際問題などの研究拠点でもあります。本学には現在、22の学部と38の専攻コースが設けられています。教職員は1,100人余り、学生が16,000人余り在籍しています。創立して67年、本学は国際的視野、異文化交渉能力とイノベーション精神を備えたハイレベルの外国語人材を10万人以上育成して参りました。彼らは中国の外交、外事、対外貿易、対外文化交流などの分野で活躍しており、西部大開発事業や国や重慶地域の経済発展のために重要な役割を果たしています。近年、当学は一带一路構想や重慶の内陸開放拠点都市の建設、長江経済ベルト建設のニーズに応じながら、各業種に合わせた実用的な人材の育成に教育の重点を置き、外国語堪能なジャンル別の人材育成を推し進め、大学の大きな発展に取り組んでいます。

本学の日本語専攻は1975年に発足して、中国で最も早く開始した日本語大学教育と大学院教育のひとつです。42年の発展を経て、日本語学部は専任教師19名、学部生約480名、院生約70名という大規模を誇るようになり、今年から日本語専攻の博士課程も正式に始まりました。本学は法政大学、広島大学、立命館大学などの日本名門大学との間で、長期的な友好交流関係が結ばれているほか、両国の相互理解を深めるために、在重慶日本総領事館のご協力のもとで、定期的に日本文化週間や学術シンポジウムを開催しており、重慶市域の対日交流の窓口として役割を果たしてきました。

日本の水戸市は中国と深い関わりがあると伺っております。明の儒学者の朱舜水と水戸藩主徳川光圀との間で結ばれた師弟の契りは、中日文化交流史上の標柱として、今でも語り継がれています。また、水戸黄門が最初に中国のラーメンを食べた日本人であると聞きますが、重慶の名物料理・火鍋のほかに、ラーメンに劣らない重慶小麵(重慶小面：チョンチンシャオミェン)もごございますので、是非召し上がってみてはいかがでしょうか。今回は時間の関係もごございますが、次回は長くお時間をいただいて、学校の学業の訓練とかイベントとかを楽しんでいただければと存じております。最後になりますが、水戸市訪中代表団の重慶訪問が実り豊かなものとなりますよう、そしてこの訪問をきっかけに本学と水戸市との友好交流が一層深まりますよう祈念して、私の挨拶といたします。ありがとうございました。

## 【李 副学長】

続きまして、高橋靖市長から、水戸市の概要のご紹介とご挨拶をお願いいたします。

## 【高橋 市長】

水戸市長の高橋でございます。今日は李学長さんをはじめ、四川外国語大学の関係者の皆様方に温かくお迎えをいただきまして、おもてなしをいただきましたことを心から感謝を申し上げます。

先ほど李学長さんより、大変ユーモアあふれるご案内をいただきながら、この四川外国語大学の紹介をいただきました。四川外国語大学が国際社会の中でグローバル人材を育成するという上において、中国の中で大変な役割を果たしているということを改めて実感させられたところでございます。また、自然に囲まれた大変良い教育環境の中で学ばれる学生は本当に幸せだと思いました。中国と日本の友好の懸け橋役として活躍いただける様な人材を多くお育ていただければ有難いと思っています。私たち水戸市としても何かお役に立てることがありましたら、皆さんと一緒に連携をしていけたらと思います。

さて、若干、水戸市の紹介をさせていただきます。水戸市は東京から北へ約100km離れた、人口27万人ほどの小さな地方都市でございます。重慶市の人口3000万人に比べると100分の1にも満たないんですが、2000年の友好交流都市締結以来、同じ目線でお付き合いいただいていることに感謝を申し上げます。小さい町と言いましても、歴史は大変奥深いものがありまして、市制施行をしたのが1889年でございます。日本全国で最初の31市のうちの1つで、東京圏では横浜市と並んで2つだけでございます。再来年は、市制施行130年の節目を迎え、盛大にお祝いの会をしていきたいと思っておりますので、重慶市関係者の皆様方にもご案内を出させていただきたいと思っております。一方で、日本は来年、近代化の道を進み始めた明治維新から150年を迎える節目の年となります。先ほど李学長の方からお話がありました朱舜水先生の学問の影響を受けて、「水戸学」という独特の学問が生まれて、そしてその学問に接した者が、近代化の道に進むべくリーダーシップを発揮いたしました。近代化をするにあたって人を作った水戸の学問をもっともっと多くの方に知っていただくために、明治維新からの近代化150年の記念事業を、来年たくさん予定しております。その元の流れは朱舜水先生の「実利・実行」といった現実的なことを重んじる学問を受け、水戸学というものが生まれて、そして水戸学が実践性、先見性、国際的な広い視野を広めて、人材を育成してきたことが、近代化に結び付いたということでございますから、そういった経緯を水戸の皆さん、日本全国の皆さんにお伝えしながら、中国と水戸のたどった歴史をもう一度振り返っていきたいと思っております。改めてこの近代化150年祭を通して、中国と水戸市の友好関係を深めていきたいと考えておりますので、四川外国語大学の関係者の皆さん、重慶市の関係者の皆様方にも、温かくお見守りいただきたいと思っております。今日はお集まりいただきまして、ありがとうございました。

## 【水戸市側から四川外国語大学への質問】

Q：日本語学部の卒業生はどのようなところに就職をしているのか、就職活動はどのように行っているのか。

A：就職先は様々で、政府の役所に入る人、通訳ガイドとして活躍する人、日本語と全く関係のない仕事、例えば起業家、自営業などもある。優秀な卒業生としては、外事弁公室の唐文副主任もいらっしゃる。就職活動については、日本の大学と同じようなところもある。授業は1～3年次

に集中しており、4年時には就職活動と卒業論文に励む。卒業シーズンになると、会社の会社説明会などが開かれる。本学でも他の大学でも行われており、うちの学生が他大学に行き、面接を受けることもできる。卒業生の就職率は90%以上に達している。

Q：学生の男女比率で、男性が1割と伺ったが、実際のところどうなのか。また、その理由については？

A：日本語学部は男性が1割ですが、他の学部では男性3割女性が7割で、学部によってはすべてが女性ということもある。文科系の大学ではそのような傾向があり、理科系の大学でも女性の比率が上がりつつあるが、中学・高校の時点から、女の子が頑張っているということの表れであり、女性の方が勉強のスキルが高いということだと思う。外国語大学だけでなく、師範学校でも女子学生は多い。理科系大学は男子学生が多いが、それが各大学の特色ということになる。

### 【水戸市側から学生への質問】

- ①なぜ日本語を勉強しようと思ったのか？
- ②将来、どのような職業に就きたいか？
- ③日本で一番行きたいところは？…できれば水戸と言っていたきたい(笑)。
- ④重慶や中国の学生さんがどのような生活をされているのか、象徴的な学生生活を紹介してください。

### 【学生1（4年生・女性）】

小学校の時から日本のアニメを見て、日本語が美しい言葉だと思って、好きになり、日本語学部に入りました。今4年生なので、就職も考えなければならぬとは思いますが、私は日本の大学院に入りたいと思います。将来はテレビか映画についての仕事がしたいです。そのためには、日本の大学院で専門知識を学ばなければならぬと思います。

私は実は、去年一度日本へ留学した経験があります。その時は、埼玉県の十文字学園女子大学で勉強しました。日本の色々なところに行きましたが、一番行きたいところは…うーん、全国を回りたいと思います(笑)。水戸市は130年を迎えると聞きましたが、来年留学するときには、水戸市にも行きたいなと思います(笑)。

学生生活についてですが、朝9時から授業があります。朝の授業が終わるのが11時40分です。授業が終わってから学食でご飯を食べて、中国の学生は昼寝をすることが多いです。しない人もいますが、普通は昼寝をして、元気をつけて、午後の授業に参加することになります。午後の授業は1時半からです。休み時間には昼寝の時間も含まれています。午後の授業は終わる時間がバラバラですが、授業が終わってからは、図書館で自習をする人や、運動場で運動をする人もいます。パソコンで動画を見る人をたくさんいます。中国の学生は学校(キャンパス内に宿舎がある)に住んでいますので、週末以外はほぼ学校で過ごします。重慶(出身)の学生は週末に家に帰ったり他のところで過ごすという選択もありますが、私たちは学校で過ごすか、重慶でショッピングをしたり、アルバイトをする学生もいます。日本語学部の学生はユニクロでアルバイトをする学生もいると思います。

### 【高橋 市長】

ありがとうございます。日本語、私より上手いですね(笑)。留学する際には、ぜひ水戸にも寄って、私を訪ねてください。

### 【学生2 (3年生・男性)】

高校生を卒業してから、どんな専門が良いか迷ってましたね。でも私は多分、他の男と(違って、) …はあ、緊張して(笑)。私は多分、うーん、日本語とか英語とか、勉強に得意だと思います。だから、四川外国語大学に…選ん…選びました。でも、日本語は、そうですね…高校を卒業してから、当時の気持ちはさることながら、でも今の気持ちは、私は、日本語を勉強していることを、幸せに感じたいです。なぜかという、毎日あの…8時の授業してから、でも中国人学生として、多分6時何分から起きます。1年生と2年生の時に、こういうことに、先生に要求されました。君たちは7時30分頃教室に来て朗読しましょう。だから、1年生と2年生の時は、本当に疲れたと思います。でも今の私は、毎日毎日、どれも…あー…どれも、…そうですね(笑)、えー…満足しています。なぜかという毎日図書館…、実は3年生になったら授業が少なくなりましたね。毎日図書館通って、最近N1試験を準備して、とても忙しく、でも充実しています。

どんな就職…、私は主として今は先生になりたいです。大学の先生としては、多分中国の場合、多分博士にならなければならないと思います。だからあの…ありがとうございます(笑)。次の問題は日本のどこに行きたいかですが、今はわからない、多分(笑)。実は私は、どこへ行っても、住民たちからの歓迎の意を感じ…あの、どこへ行っても大丈夫だと思います(笑)。水戸市の人と付き合っって嬉しいです(笑)。

### 【陳 副学部長】

やっぱりちょっとね、(語学力は)女子の方が上(笑)。

### 【学生2】

大学生の生活からという、えー、他の大学はわからないですけど、でも四川外国語大学の学生は、私が見ると、とても毎日努力していて、図書館に通っている学生がいます。多分毎日、午後になったら、図書館に来て席がない人います。だから、四川外国語大学の学生は本当に勉強が好きですね。以上です、はい。

### 【陳 副学部長】

図書館の机の場所取りは、本当に激しいです。

### 【李 学長】

学生の話聞いて、本当に頭が痛く感じるのですが、図書館の資料は本当に限られています。学生さんたちの数に席を合わせることは難しいことですが、Wi-Fiの普及を全学内に広げたいと考えており、資料の検索とか、静かな場所での調べものとか、学生さんたちの役に立てれば良いと考えております。

学生から、何か質問はありますか？

**【学生3 (3年生・女性)】**

重慶市は直轄市ですが、直轄市とは国に直接管轄を受ける市ですが、スイト市(水戸市)は、市長さんの話によりますと、日本の特別市(特例市)に指定されていますが、日本では特別市と言ったら、どういう市ですか？

**【高橋 市長】**

上から順番に言うと、政令市、中核市、特例市、普通市とあり、4つの段階に分かれています。人口20万人以上、30万人未満が特例市で、権限が少し普通市より上なんです。ですが、特例市はなくなり、20万人以上から中核市になれるようになりました。これからは20万人以上が中核市、100万人くらいが政令市となります。水戸市は2020年に中核市になるため、準備をしています。保険や衛生に関する200個ぐらいの権限が県から水戸市に移ることになります。皆さんの健康と命に係わる政策が必要になるということで、今準備をしているところです。

**【李 副学長】**

水戸市には、大学はいくつくらいあるのですか？

**【高橋 市長】**

国立大学が1つ、私立の大学が1つ、合計2つあります。

**【李 副学長】**

時間の関係で、今回の座談会は以上を持ちまして終わらせていただきます。お話が尽きないところもあるかと思いますが、これからもそれぞれが訪問するなどして、さらに交流を深めていただければと思います。

## 重慶市人民政府表敬訪問

### 【劉桂平 副市長】

まずは、同僚の皆さんをご紹介しますと思います。重慶市政府の副秘書長の李謙さんです。重慶市文化委員会副主任江衛寧さんです。重慶市外事華僑事務室の唐文副主任です。重慶市体育局副局長の陳玉林さんです。四川外国語大学副学長の李小川先生です。同僚を代表しまして、市長のご訪問に対し、衷心より歓迎申し上げます。同僚よりもらった資料によりますと、水戸市と重慶市との付き合いはもう既に歴史が長いということで、1985年からの付き合いがあったということがわかりました。30年のお付き合いということで、高橋市長はきっと重慶のことに注目されているのだらうと思います。それにしても、近年の重慶市の発展が早いということで、重慶市の近況についてご紹介させていただきたいと思います。ご来訪の皆様の中には重慶市の地理的な位置を知っている方もあまり詳しく知らない方もいらっしゃると思いますので、まずは簡単に重慶の地理的な地位を紹介したいと思います。

重慶市は中国の中部・西部地域で唯一の直轄市でありまして、中国の南西部に位置しています。直轄市としては非常に面積の広いところで、8.24万平方キロございます。人口も多く、併せて3,397万人になります。重慶の歴史も長いです。3300年余りの歴史がございます。重慶市の一番特徴的なところと言えば、とても美しい山水の町だと言うことができます。揚子江と嘉陵江と武江という3つの大きな川があります。山と言えば、数えきれないほどのたくさんの山がございます。山の町・山岳都市ということで、海拔も様々で、とても立体的な街です。山もあって川もあって、とても景色の美しいところで、国際的にも観光の目的地として人気があります。観光都市として外国に向けて宣伝できる観光スポットは少なくとも100か所以上に上っています。お客様に数えていただきますと、数百か所に上るということです。重慶市はその名にふさわしい山水の町だと言えます。

近年の重慶の経済発展も好調に向いています。毎年少なくとも2桁の成長を遂げています。去年のGDPは1.7億人民元でございます。今年の3つの四半期で10%の成長率として計算しますと、年末までにはGDPは2万億元になる見込みです。

重慶は内陸部の町なのですが、対外開放という面において非常に大きな進歩を遂げています。中央政府からも重視されて、大きな期待が寄せられています。重慶の中には新しい経済開発区もございまして、自由貿易新区もございます。税関などの設備も整っていて、解放という面から言うとかかなり進んでいるという自信があります。重慶では既に3つの大きな物流のルートが出来ています。東には揚子江の往航水路がございまして、上海を経て太平洋に直通します。西の方には、午前中の観光でお分かりになったかと思いますが、中国とヨーロッパとを連結する鉄道がございまして、直接ドイツのドゥイスブルクまで通じます。最近では南の方で江西省で新しい港が建設されて、直接東南アジアと南アジアにつながります。到着されたときに重慶の空港を利用されたかと思いますが、重慶の江北国際空港は非常に大きなもので、敷地面積は70万平方キロを越えています。運用中の滑走路は3本あります。世界の53の国との間で契約が結ばれ、72時間以内ならビザなしで入っただけのことになります。

近年来、日本との貿易はかなり進んでいると思います。今年10月までに日本との貿易総額は168億元になっています。全体の3000億元という数字から見ると、割合はそれほど高くはないのですが、成長率は24.9%と高い数字になっております。以上が重慶の経済発展の状況です。

1985年以来のお付き合いということで、友好交流都市の盟約も結ばれておりまして、中国の感覚



で言えば、我々は親戚みたいな感じです。頻繁に交流もされてきました。しかし私はこれに満足せず、友好を深め、一步踏み入った交流ができるように願っています。先ほども申し上げましたように、重慶は今、観光業を重点的に発展させているところでございまして、日本の皆様、特に水戸市の皆様の中から、もっとたくさんの方が重慶に観光に来ていただきたいと思います。経済・貿易の面におきまして、これまで経験・実績を積んできたわけですが、これからも更に協力を深めていきたいと思っています。貿易額の成長率24.9%のうち、輸出は15%しかありません。それに対して輸入の成長率は30%もあります。輸出の面でも成長率を30%まで引き上げることができれば有難いと思います。しかも重慶にはたくさん良質な商品がございまして、日本に輸出できれば有難いと思います。それと同時に、双方向の投資を進めていければと思っています。世界企業トップ500のうち272社が重慶に進出しています。ご存知かと思いますが、重慶は中国の伝統的な工業基地のひとつです。重慶に進出している日本企業も少なくありません。ぜひ、水戸市の企業にも進出していただけたらと思っています。

友好交流都市ということで、我々は人的・文化的交流を進めてきましたけれども、我々の世代だけでなく、若い世代の人々にも交流していただけたらと思いますので、教育・人材育成の面におきましても、交流を進めていきたいと思っています。水戸市は少年サッカーで豊かな経験をお持ちだと伺っております。本日は、重慶市の体育局長にも来てもらっており、重慶市の青少年のサッカー事業を推し進めていきたいと思っていますので、交流できればいいなと思います。

#### 【高橋 靖 市長】

本日は、大変お忙しいところ、劉副市長さんをはじめ重慶市人民政府の皆様方に、このような大きな歓迎をいただいたことを心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。また昨日から唐副主任さんをはじめ、重慶市の外事弁公室の皆様方に大変なご配慮をいただきました。併せて感謝申し上げます。また、今年は日中国交正常化45周年の記念事業で、北京で卓球大会が開催されましたが、重慶市と水戸市が友好交流都市ということでチームを組ませていただいて、試合を行いました。おかげさまで銅メダルを獲得することができました。特に、重慶市の中学生の卓球選手に大変助けられたと伺っております。本当にありがとうございます。先ほど、副市長さんからご提言がありましたが、水戸市もプロサッカーチームを抱えておまして、サッカーが大変盛んな町です。サッカーをはじめ卓球など、スポーツの交流でお互いの親睦が図ればという思いで、これからも様々な分野で交流を深めていきたいと思っています。

私自身、重慶への訪問は今回で3回目でございます。1回目が友好交流都市の締結をいたしました2000年、2回目が2011年、そして今年が3回目ということですが、来る度に重慶市が目覚ましい発展を遂げているということ、驚きと同時に友人として大変嬉しく思っております。本日は重慶の都市づくりを様々な面から見させていただいたのですが、本当に夢のある計画で、それが着実に実行されているということが凄いという感想を持ちました。日本人にはないスピード感、やると決めたらスケジュール通りにスピード感を持ってやるということに、政府の政治力の凄さを肌で感じました。私たちは重慶市に比べると人口も100分の1以下ですから、全て真似をするというわけにはいかないのですが、街づくりの様々な考え方や、特に広域的視点に立った都市づくりといったことを一つ一つ見習いたいということを改めて実感しました。私たち水戸市も、産業構造のほぼ90%以上が第3次産業に特化をしているということもあり、また日本の経済が内需よりも貿易等から発展していくという傾向があることから、私たちもお酒や食料加工品、農産物など、広い視

点を持って貿易等に絡めていけるような事業を展開するポテンシャルを持っておりますので、今日見せていただいた貿易等の取組み、勿論あのような大規模なものにはなかなかできませんけれども、水戸の身の丈に合った形で外に向けた貿易等の新たな事業展開、産業育成が図れるのではないかと、今日の視察を通じて、勉強しました。ありがとうございます。実は最近、重慶市出身の女性企業経営者に何度も水戸にお尋ねいただいております。水戸の観光大使をお願いしている方が重慶市に住んでいらっしゃるようで、その方が呼びかけをさせていただいて、水戸にお連れさせていただいております。水戸の企業経営者ともいろいろな意見交換をされているようでございますので、そういった取組みを一つのきっかけにして、小さい町ですから大きいことはなかなかできないのですが、小さいところから重慶市との経済的な関わりを広げていければと思っておりますので、副市長さんにも色々ご指導いただければと思っております。

少し水戸のことを紹介させていただきます。2011年に東日本大震災が起こって、水戸市も大きな被害を受けました。その半年後に私は重慶市を訪問させていただいたときに、当時の副主任の方に励ましとお見舞いの言葉をいただきました。重慶市の皆様の心の温かさを感じました。おかげさまで街の様子はほぼ元通りになりまして、今は最後の大きな事業であります市役所の再建を行っているところでございまして、これも来年の10月には完成するところでもありますので、今、水戸は震災を乗り越えて、新たな時代に向けて躍進を続けようという計画をしているところであります。特にその事業の一つが、私たちも観光都市なものですから、まずは観光産業を伸ばしていくための拠点づくりをやっているところでございまして、昔の水戸城の周辺整備等を中心に、観光のインフラ整備を進めているところです。ちょうど来年が水戸が近代化の道を歩み始めて150年になります。近代化の道を歩むべく人材の育成を図った町がまさに水戸でございまして、今回の150年祭を記念することで、改めて水戸の歴史を振り返って、その歴史を多くの方々に理解をしていただき、水戸市の子どもたちには誇りを感じていただきながら、外から来る方々には水戸の歴史をしっかりと感じていただいて、そのことを観光振興につなげていければと思っております。先ほどの四川外国語大学での懇談会でも申し上げましたが、近代化の主役となったリーダーが学んだ学問が「水戸学」なのですが、それは中国の明の時代の儒学者であります朱舜水先生の学問の影響を受けているということですので、中国と水戸とのつながりというものも、多くの方々に知っていただくような事業を展開していければと思っております。また水戸の木は梅の木なのですが、昔の中国では勉強を一生懸命やると梅の花が咲き、勉強を怠ると梅の花が萎んでしまうという謂れがあり、学問を大切にしている街にふさわしいのが梅の木だということで、水戸市の主な観光地には梅が植えられています。水戸の学問や観光を語る上で、中国との関係が非常に大切になってきます。これからもそういったことをアピールしながら、特に来年の150年を契機に、中国、特に重慶市と水戸市の友好交流が深まるような事業展開ができればよいという思いで、取組みを考えていきたいと思っております。また、水戸には留学生をはじめ800人以上の中国の方がいらっしゃいます。私たち水戸市の責任は、800人の中国の方が水戸で安心安全に生活できるように、そして水戸市で生活してよかったなということを中国に帰って言っていただけるような生活の支援をしていきたいと思っておりますし、特に留学生の皆さんには、若い考えで水戸の観光振興にもご助言をいただいておりますので、これからも中国の留学生ともますます交流を深めていきたいと思っております。私も日中友好協会の名誉会長としてこれからも日中の友好、そして重慶市と水戸市の友好親善のために、しっかり力を尽くしていきたいと思っておりますので、引き続き副市長さんのご指導ご鞭撻をいただきますように、よろしく願いを申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本当に今日はお招きいただきましてありがとうございます。

**【劉 副市長】**

市長から水戸市について紹介していただきありがとうございます。そしてまた2011年に東日本大震災に際して、悲しいことでしたけれども、最近はスムーズに進んでいるということを受けまして、心からお喜び申し上げます。中国と日本は一衣帯水の両国でありまして非常に交流の歴史が長いのですが、さらに交通が便利にもなりましたし、情報の伝達手段も発達し、これから更に交流を進めていくべきだと思います。すでに実績を上げてきましたが、これをベースに、これから政府間でも民間でもたくさん交流イベントを行って友好交流を進めていただきたいと思います。両市間の友好交流は両市の市民の生活面の向上にもつながると信じております。水戸市の方々、高橋市長をはじめとする市民の皆様には、震災で被災をされた後の再建が無事に済み、これから更に未来に向けてもっと幸せな新しい生活を切り開いていただきたいと思います。心から願っております。最後になりますが、市長と市民の皆様が重慶滞在中健康に、元気に過ごされますよう、お祈りしております。

**【高橋 市長】**

ありがとうございます。“谢谢！”

## 団員報告



瞰勝楼より重慶市内を望む

# 地に根ざした地道な友好交流関係構築が必要不可欠

高橋 靖

第8回友好交流都市重慶市親善訪問及び中国文化・行政視察団に団長として参加しました。私自身、重慶市訪問は3回目で、6年ぶりの訪問となりました。前回訪問した2011年には重慶市の目覚ましい経済成長を目の当たりにし、これが「中国の現状」という強い印象を受けたのを今でも鮮明に記憶しています。

伸びゆく中国の経済状況を視察できることを期待した今回の訪問でしたが、やはりその期待を裏切ることなく、6年前にも増して様々な都市政策が動き出していることに驚きを禁じ得ませんでした。

まず、重慶市親善プログラムとして重慶市企画展覽館（未来館）を訪ね、今後の重慶市の都市政策や経済政策等について学ぶことができました。館内には何億円かけたか分からないような市街地の様子を示した大規模なジオラマが展示されており、重慶市全体の都市構造を観ることができます。合わせて最新技術を駆使した動画で市内の観光名所を紹介しており、そのインパクトはドローン撮影を遥かに超えた新たな視点で強烈な印象を与えてくれます。いずれにしても都市政策や経済政策の将来展望とともに、中国の映像技術や市をPRする表現力を学び、私たちの施策にもまだまだ改善の余地があると気付かされました。

また、重慶貿易開発区を視察させていただきましたが、いわゆる貿易産業の集積地区で、世界中を相手に取引をしている企業が集まる第三次産業の工業団地のようなものです。そこでは様々な取引商品が展示されており、各企業間の情報共有や情報交換がしやすく、貿易に力を入れる企業への支援が行われています。第三次産業が大半を占める水戸市にとっても、その特徴と強みを活かした産業活性化策を講じるうえで参考となるものでした。



さらに四川外国語大学を訪問し、李学長をはじめとする大学関係者と中国の教育事情等について懇談を行い、合わせて日本語を学ぶ学生と意見交換を行いました。学生が日本語を学ぶ入口となっているのが日本のアニメだそうで、日本独特の文化と技術が興味を向けさせているようです。将来は日本に留学したいという学生も多く、重慶市と水戸市の間で、教育分野での交流を推進することができるのではないかと感想

を抱いたところです。

重慶市親善プログラムのメインともいえるべき重慶市人民政府への訪問と懇談会では、劉桂平副市長をはじめ、政府関係者に熱烈な歓迎をいただき、今後の友好関係構築などについて、有意義な意見交換を行うことができました。

しかし、人口3,000万人を超える重慶市の取り組みと水戸市の現状とを比較したとき、話が噛み合わない部分があることも実感しました。今後、同じ目線で交流を続けていくための新たな目的と手法が必要不可欠と認識させられました。学生や市民との交流プログラムを盛んにするなど、地に根ざした地道な友好交流関係を構築し、両市の平和と繁栄につなげていきたいと思えます。

最後になりますが、本訪問にご参加いただいた団員の皆様をはじめ、ご協力いただいたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

# 平成29年度第8友好交流都市重慶市親善訪問及び 中国文化・行政視察団派遣事業に参加して

木本 信太郎

この度、第8回の友好交流都市重慶市親善訪問団に参加し、ご協力頂きましたすべての皆様に感謝申し上げます。私は、重慶市の訪問は前回に引き続き2回目となります。今回は高橋市長を団長に、私は副団長という立場で参加、総勢16名で11月14日から19日まで6日間の日程で事業が行われました。事業1日目は水戸市から上海でのトランジットを経て重慶市まで移動、ホテルに着いたのは夜遅くでした。2日目は終日重慶市親善プログラムが行われ、重慶市企画展覽会（未来館）や重慶貿易開発区の視察、そして前回も意見交換をさせて頂きました、四川外国語大学日本語学部を訪問させて頂きました。今回は四川外国語大学の李学長にお出迎えを頂き、大学の歴史や現状についてご説明を頂き、その後日本語学部の生徒たちと意見交換を行いました。夕方より重慶市人民政府が運営するホテルへ移動、重慶市刘副市长を表敬訪問し、今日まで両市の友好関係に感謝を申し上げ、またこれからの水戸市と重慶市の友好の促進について高橋団長と刘副市长が意見交換を行いました。3日目から4日目の午前中まで引き続き重慶市内の視察が行われ、4日目の午後より古都西安へ空路で移動、5日目に世界遺産である、兵馬俑や西安城壁、そして青龍寺などを視察させて頂きました。



この度の友好交流事業を振り返り、訪れた先は重慶市と西安だけではありませんでしたが、中国の歴史の奥深さ、そして現在の中国経済の勢いの凄まじさを改めて実感させて頂きました。重慶市では一帯一路政策も着実に進行しており、すでに電車で重慶市からドイツまでレールは繋がり、重慶市の空港は国際空港として変貌を遂げ、重慶市の夜景は香港や他の大都市にも負けない街並みになっております。今後、この大都市・重慶市と水戸市の友好交流はどのように進展を進めていけばいいのか、時代の変化と共に、次のステージへの模索をする時が来ているかもしれません。また、西安では、兵馬俑や西安城壁からは長安時代や時の皇帝の権力の偉大さを感じ、そして青龍寺をはじめ街では、仏教・イスラム教を問わず、多様な歴史的な宗教寺院が残り、中国がいかに多民族、多宗教



国家であったかを肌で感じる事が出来ました。この度の交流事業を通して、今尚、大きな発展を遂げる隣国・中国に関して、多くの気づきを頂きました。これからも水戸市と重慶市の官民上げての交流事業の深化が、両国の発展と国民の幸せ、そして東南アジアの平和と安定に寄与する事を祈念し、ご報告させて頂きます。

# 第8回友好交流都市親善訪問及び 中国文化・行政視察団に参加して

秋山 恒典

中国へは35前に初めて訪問してから3回目となります。

最初は、改革開放政策が始まる前でしたので、自転車が走りバス・トラックは見かけるものの乗用車はあまり見かけませんでした。人々は画一的な服装、女の人は素顔のまま、生活は質素でしたが平等でゆったりした時間が流れていたことを覚えています。

2回目は2年前に訪問し、改革開放が進み、高速道路・鉄道・高層住宅が立ち並び街の変わりように驚くばかりでした。

それでも、鉄道は建設途中であったり、建物にクレーンが設置され工事中のところが目立ちましたが、2年たっただけで街並の建物・道路・鉄道など素早くに整備されてしまうことに私がいる街と違った時間の流れを感じてしまいました。



## 重慶市表敬訪問

### 重慶市 劉桂平副市長

水戸市とは古い友情で結ばれています。

重慶市は地理的に中国の南西部に位置し、立体的な山と川の美しい街で3,300年の長い歴史があり、数百か所の名所がある観光の都市であります。

発展が早く、内陸部ですが改革開放が進み2桁の経済成長率を維持しており、自由貿易特区もあります。

一帯一路(現代版シルクロード、陸路・海路)の重要な拠点となっており、長江・嘉陵江が合流し下降の上海港湾から海外へとつながっています。(三峡ダムの完成により1万トン級の船の往来が出来るようになりました)

鉄道はヨーロッパまで伸び、ドイツ デュイスブルクの拠点から各国と繋がるようになりました。(空港に移動中鉄道の敷地には貨物操作が行われる線路が多数見られました。工業製品を輸出し、食糧、自動車などを輸入しています。空路より1/5安く、海路より1/4早く輸送出来る利点があります。)

空港の整備と合わせ各国と契約が整い、ビザ無渡航が53ヶ国と出来るようになりました。今後観光面で相互に協力していこうとしています。

良い商品がたくさんありますので輸出を増やしていきたいとのこと。

経済は良く2桁の成長を続けており、今期1.7兆人民元10%成長を持続すると2兆人民元のGRP



が予測されます。

日本企業は本田技研工業、スズキ、ヤマハ、いすゞ自動車、デンソー、新日鉄住金エンジニアリング、日立化成、川崎重工業が進出し経済活動の一翼を担っています。重慶市のタクシーは重慶長安鈴木汽車有限公司製造のスズキの車に統一されているように中国に根付いています。

## 水戸市 高橋市長

水戸の選手が日中友好交流都市中学生卓球交歓大会に重慶市との合同チームとして参加し、銅メダルを取り友好を深めた。

両市にプロサッカーチーム「重慶力帆足球倶楽部」「水戸ホーリーホック」があり、スポーツの友好を深めたい。

2000・2011・2017年に重慶を訪れたがスピード感が凄い、街造りの計画性を見習いたい。

重慶市出身の女性企業家に観光大使になってもらい、水戸の産業の交流を含め打ち合わせしていきたい。

2011年の東日本大震災の対応に心の温かさを感じております。6年が過ぎ立ち直ることが出来ました。あとは市庁舎の工事を完成させることです。

市政130年祭の開催に合わせ観光の街の拠点作りと人材の育成をはかっていきます。

トップは小さな事でも誠実に聞くことであり、梅の木は学ぶと咲き学ばないと咲かない、のたとえもあり今後重慶市との結びつきを育て副市長の指導のもと、水戸在住800人の中国の方や学生が帰っても水戸は良かったと思ってもらえるようにしたい。

## 四川外国語大学訪問

四川外国語大学では李克勇学長が直々に出迎えていただき博物館、校舎など案内していただき感激しました。1.6万人の学生1,100人の教授がおり10万人を育成してきた。

日本語学部の先生及び学生との交流を行い通訳をしてくださった女学生はとても日本語が上手でした。語学は女性のほうが早く覚えると言われますが、納得した感があります。

日本語を学ぶきっかけはTV、映画、アニメなどの影響を受けた方もいますが、学ぶ努力をしている学生が多く日本に留学する学生も多くいます。また図書館の席を取るのが難しいとのこと、図書館の資源は限りがあるのでWi-Fiを活用して学べるよう検討しているとのこと。教師になるには博士になればなれないなどの事情があるようですが、言語能力を身につけるモチベーションの高さを感じました。

## 重慶観光・西安史跡めぐり

○夜の揚子江から乗った船は写真で見るマンハッタンの中をクルーズしているのではないかと錯覚するほどでした。もはや世界と肩を並べた感があります。しかし、バスに乗り込むときは、人ごみで雑然としているのはTVで見た光景でした。

○西安の青龍寺は遣唐使として渡った空海が修行を行った寺です。1200年前に日本からここまで辿り着くには創造を絶する苦勞があったろうに、そして学び日本に持って帰り真言宗を伝えました、教えはこの時から広められたと思うと感慨深いものがあります。四国88ヶ所の巡礼はこの寺が起点。御朱印帳を頂きましたので、お寺に参ったときはこのことを思い出し御朱印を頂こうと思います。

○紀元前210年に統一国家を創った秦の皇帝を守る兵馬俑、精巧に作られた埋葬品はそれぞれが個性を持ち同じものが無い、当時の姿を再現した兵士・馬車は精巧に作られ見事なものです。高度な技術と青銅器文明があったことが統一に結び付いたとの説明に感銘を受けました。

中国、日本の結びつきは長い歴史があり、水戸市長から重慶副市長へ言われた友好の絆を大事にし今後も深めてまいりますとのこと、役に立つことがあれば微力ですが協力したいと思います。

今回第8回友好交流都市親善訪問及び中国文化・行政視察団に参加して貴重な体験や見聞を広めることが出来ましたことは、関係各位の皆様、団長の水戸市長を始め団員の皆様に感謝申し上げます。



# 平成29年度第8回 友好交流都市重慶市親善訪問団に参加して

川上 美智子

このたび水戸市重慶訪問団に一市民として参加する機会を得、貴重な体験をすることができました。これまでも学会、会議、旅行等で中国には数回渡航していますが、友好交流都市である重慶市を訪れるのは初めてでした。事前にNHKの報道番組で重慶が「一带一路」即ち、カザフスタン、ドイツに至る大陸横断鉄道の一帯の起点として重要な交易都市になっているとの情報を得ていましたので、私にとってもタイムリーな企画でした。



まず、重慶市に到着する前に気になったのは、厚い灰色の木綿わたのような雲の中をかなり長い時間、飛行機が飛んでいたことでした。地上に到着する直前まで全く視界のない中を飛行機は飛び続けました。PM2.5の影響が、こんな形で表れている中国の空の異変に気づくことができました。3年前に訪れた杭州市でも、高層ビル群の建築ラッシュで、晴天の日でも太陽や青空が見えず埃っぽい街に変容していたのに驚きましたが、重慶の雲は異様でした。

重慶到着2日目に、今回の訪問団の最も重要なミッションである重慶市人民政府への表敬訪問と人民政府による歓迎会、そして重慶市企画展覧館・未来館と貿易開発区視察、四川外国語大学日本語学部の視察と学生との交流など、たくさんのプログラムが組まれていました。重慶市は、人口3392万人の経済成長著しい巨大都市で、世界トップ企業500社の半数以上が進出し、まさに未来都市構築の最中にあり、国力の違いを確認できました。長江、嘉陵江を挟む兩岸は高層ビルが乱立



していましたが、その隙間に遺された中国の古い建物が、清濁併せもつ混沌とした印象を与えていました。重慶副市長からは、政府直轄市として、現在の3空港に加え更に2つの空港を開港し、4本の山脈を繋ぐ高速道路や鉄道を造り、経済開発区、自由貿易区の交易と観光都市へ発展させる壮大な計画があるとの話を伺いました。2045年、AIと人類のコラボで社会が大きく変化

するシンギュラリティ（技術特異点）がこの地では現実のものとなるのではないかと、早晩、中国が経済覇権国となる日が来るのではないかと、想いをめぐらせ衝撃を受けました。一方、日本が今後、先進国として歩み続けるためには何が必要か、グローバル教育や先進科学・情報教育を一層推進しなければならないと強く感じました。四川外国語大学の広さと学生数（15,000人）の規模にも圧倒されました。日本語学部で学ぶ学生たちの日本語のスキルや学びに向かう真摯な態度に触れ、ハングリー精神に乏しい日本の大学生が太刀打ちできるか心配になりました。

重慶の夜景は上海の夜景に劣らず華やかでした。中国の急速な都市開発が、地球規模の環境汚染に影響する可能性を現地ガイドに尋ねたところ、国もわかっているのだが、今はGDPを優先しているとのことでした。

西安では空海が修行した地に建立された長安青龍寺を訪れ、四国遍路八十八カ所のゼロ番札所の御朱印帳を手にいれました。かつてシルクロードの起点であった西安の街は、城壁の中にも高層ビルが建てられ、世界遺産の兵馬俑は立派に整備された観光地に変身していました。

今回の視察は、学びや発見、驚きの連続で、急成長する中国の姿を知り、改めて自国を振り返る旅となりました。高橋靖市長をはじめ、両市の関係者の皆さま、団の皆さまには心から感謝申し上げますとともに、両市の友好関係が末永く続きますようご祈念申し上げます。



## 第8回友好交流都市重慶市親善訪問団に参加して

川又 豊彦

この度は友好親善訪問団に初めて参加をさせていただきありがとうございました。

中国のスケールの大きさと深い歴史に改めて感動するとともに、市内の建設ラッシュ等中国の経済成長の勢いを感じました。

第1日目の四川外語大学の視察は、規模の大きさと内容についても驚きました。「熱烈歓迎」「日本水戸市訪問団」の学長をはじめ出迎えに感謝（シェシェ）（ニイハオ）の次第です。

学生との懇談や歓迎会など訪問団のもてなしについても感謝の次第です。

重慶市長や四川外語大学長との懇談なども大変に勉強になりました。

市内の博物館や人民大礼堂なども見学をして中国の偉大さに感心させられました。

中国歴代王朝の都・西安市への訪問です。世界遺産の兵馬俑や西安城壁、空海大師の青龍寺などの中国の歴史の深さについても大変に勉強になりました。

1日1日が充実した毎日であり、有意義な経験でした。



最後に視察団の皆様及び関係者の皆様に心より感謝を申し上げますと共に、皆様の御健勝を祈念してご報告といたします。

本当にお世話様になりありがとうございました。  
(感謝 シェシェ)

# 重慶市親善訪問団に参加して

郡司 由紀子

この度は、第8回友好交流都市重慶市親善訪問及び中国文化・行政視察団の一員として参加させていただきました。中国という国には、同じアジアの国として前々から興味・関心がありましたが、近くて遠い国というイメージでした。外国へ行くなら欧米へと、何となく思っていましたので、この機会を与えていただきまして、ありがとうございました。



さて、重慶市ですが、長江と嘉陵江の合流地点に位置する直轄市であり、丘陵地を開いたため起伏が多いことから「山城」とも呼ばれているそうです。未来館や貿易開発区の視察をした時の説明やジオラマ等から、なるほど、坂の多い所だと思いました。しかし、酒屋山の上の方にも高層ビルが建てられていますし、交通網も整備されているその一方で、たくさんの人と車、そして交通渋滞がありました。万一、地震等がおきたらどうするのかと思わぬ心配や不安が頭をよぎりました。

次に、学生との交流ですが、学生は、日本語をととても上手に話していました。それには日頃のたゆまぬ努力があるのだと思いました。学生をみていると、まじめで熱心で一生懸命がんばっている様子がわかります。よく言われることですが、外国語習得には、このように積極的に話したりする姿勢が大切なのだと痛感させられました。

なお、重慶の食ですが、四川料理ということで激辛でした。しかし本来は、もっと激辛なものが多いとのことでした。火鍋は、あまり辛くない方を食べたので、おいしくいただきました。食事も楽しみの一つでした。

今回の訪問は、私にとってみのりの多い異文化体験となりました。今日、テレビ・雑誌等で、外国の情報もわかるようになってきていますが、『わかっているようで、わからない』ということが、よくわかりました。まさに、『百聞は一見にしかず』です。また、あらためて日本（水戸）のよさを感じることができました。

今後とも、水戸市と重慶市との友好交流がますます進展していきますことを願っています。大変お世話になりました。

## 第8回友好交流都市重慶市親善訪問に参加して

鳶 健

四川省重慶市の訪問は3回目となった。水戸市国際交流協会王偉亜事務局長には「あなたは中国と水戸の懸け橋にならなければならない。」と常に言っていた。彼から「重慶に行きましょう」、と言われて断ることが出来ない関係になっていた。そう言うのも、1993年(平成5年)に偕楽園公園・千波公園で開催した“全国都市緑化フェアいばらき”に重慶自然博物館の恐竜展を開催し、資料の日本語表記、重慶市から恐竜の化石を借りる手続等、王さんの協力がなければできなかったからである。



(平成5年3月のとき)

右端が王偉亜さん

市役所近くのマンションを借り上げて、恐竜組立の重慶職員が2か月間8人住んでいた。さらに重慶自然博物館副館長鐘志階、王新南さんは6月末まで5か月滞在し、その間、何度も交流をした。

重慶市の目覚ましい開発と発展には目を見張るものがあり、そのスピードは日本の開発に比べてはるかに速い。土地や建物が国のものであるが故に、地権処理に時間を要しないなどの国柄の差があるのだろう。それにしても架橋、道路や鉄道整備が以前(6年前)と比べてものすごく整備されていた。

私は開発により失う“中国らしさ”を大切にしなければならないと思った。重慶市の説明担当者に“古き良き時代の中国の姿が失われてしまい残念である”旨の話をした。さらに古き町を生きたまま(生活者がいるままで)で残すべきだ、と言ってしまった。開発説明者は困惑した顔をしたが、しかし、中国でも歴史保存が問題となって“街区”として保存していると説明があった。余計なことを言いすぎてしまったと反省をした。

貿易開発区の視察、未来館を見て、欧米に追い付け、追い越せのように感じたのは私だけだったかもしれないけれど、街路樹の緑化、花壇整備、ごみが落ちていない美化活動など、以前とは想像ができないほど管理面が行き届いていた。街中にはWi-Fiが整備され、市民のほとんどがスマートフォンを持っている。もう日本より20年は先を歩いている感じがした。

揚子江クルーズから見る夜景は大きな観光収入につながっており、高層ビル群が華やかな電飾で彩られ、国内外から観光客が押し寄せてきているようで、日本と異なり夜10時頃でも乗船している姿が見られた。

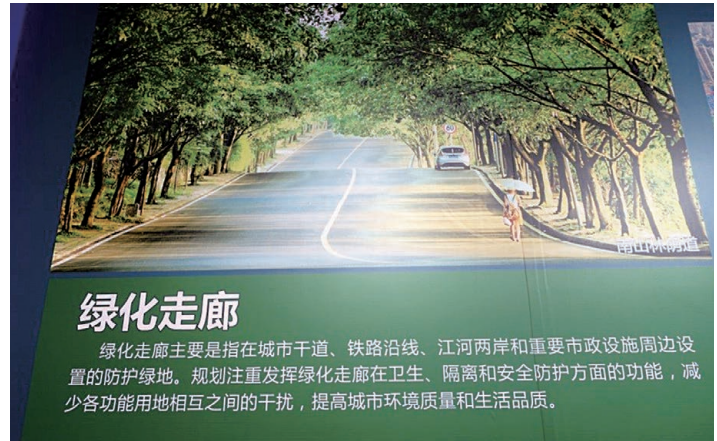
急激な高度成長により、街中や高速道路では渋滞が起きていた。特に通勤時間帯の渋滞はすさまじいもので、一昔前の自転車や荷車はほとんど姿を消していた。それでもオート三輪のような速度

が出ない車両も多少は見られた。日本だったら喧嘩になりそうな割り込みや車線変更は当たり前で、それでも事故は少なく、駐車違反に怒ることもなく平然としているのは寛容の国なのかしら？とってしまう。

魁星楼という中国風の建物群に行った。遠くから見ると寺院か、古そうな建物に見えたが、近くに行ってみると確かに

古そうな建物であったが、一昔前のショッピングセンターのようなものであり、屋上が大きなフラットの広場になっており、両脇にお店らしき構造となっていた。恐らくここも取り壊され、新たなショッピング施設をつくるのではないかと視察した。

最後に今回の小さな喜びとして、西安の兵馬俑であった瀋陽大学日本語学科の学生とメールの交換ができた。大学3年生と言っていた彼女たち。とても流暢な日本語で話し、送られてきた文章もとてもしっかりとした内容であった。龍谷大学に留学し、水戸にも来たいと言っていたので再会することが楽しみになった。どこを案内しようか？



右の学生 遲嘉懿

左の学生 杨曼曼



## 重慶市親善訪問団に参加して

高阿田 啓寿

前々回の平成23年の第6回訪問団に参加して以来の海外旅行となりました。中国の都市部の大発展は驚くばかりである。重慶1都市のみの観察でもそのすごさに驚かされますが、その他の北京、上海、大連、南京、ハルビン等の大都市も同様かと思えば中国全体の国力の発展の程も想像がつこうというものです。世界の先進国といわ



れる国々が人口減少の傾向にある中で中国は益々増加し、“一帯一路”の国策のもとに世界の各地に中国人が進出し今後50年も経ったら世界中が中国人だらけといった状態になるであろうと予想されます。好むと好まざるとにかかわらず何れはそうなるであろうと思われま

す。願わくば友好的平和裏に発展することを望むのみです。乗り換えのため立ち寄った上海空港をはじめ上海の市内、重慶の空港及び市内のいたる所に於いてネオンサインに依る“中国の特殊的社会主義は今や新しい段階に突入した”との意のローガンが表示されていましたが、どういう意味か良く分かりませんが、“世界中の社会主義国家の多くが破綻を来した中で我が国(中国)の社会主義は益々発展中である”という自負の意と思われま

す。その先に“AIIB”や“一帯一路”の国策があるのでしょうか。11月14日(火) 今日

は日本から重慶へ行くだけでまる一日がかりの長旅である。羽田から上海乗り換えで重慶に着いたのは夜中。深夜にホテルにチェックインする。11月15日(水) 重慶市企画展覧館を見る。両江新区の開発計画の説明あり。その規模の雄大さに驚嘆する。午後四川外語大学日本語学部を視察する。広大な敷地に各施設があり、山の上にまで校舎がある。駐車場から施設までの長い通路を歩いていると後ろから「オジサンコンニチワ」と声がかかった。俺のことかとふり返ると若いまだ子供っぽい女の子が寄って来た。「ワタシハイマニホンゴベンキョウシテイマス、サンネンセイデス、ナマエハショウヨウトイイマス」とけっこう日本語上手である。「シュウトイウジハシュウオンライノシュウデス、ヨウハキノハデス」おおっ周葉ちゃんかとすぐ分かった。木の葉をコノハという日本語の言い回しまではまだ分からないらしい。「ワタシハアナタノオナマエオヨビシテイイデスカ」とずいぶん丁寧な云い方ではあるが、私の名前を聞いているのかとすぐ分かった。私の名前は鈴木や佐藤と違って口で云っても面倒だから、名刺を出して、ふりがなのところを指さして口頭で教えたらずぐに理解した。ひらがなは読めるらしい。渡した名刺をじっと見ていたが、「オシゴトハノウギョウデスカ」ときた。そうです、農業です、ピンボー農業ですと云ったら、アラーと云ってフフッと笑った。どうも農業イコール貧乏という観念は

日中共通の認識としてあるものらしい。もしかしてこの娘さんも農村部の出身なのかもしれない。

施設までの途中いろいろと話しているうち、現在3年生で、4年生になると6月に卒業すると云う。なるほど日本では3月卒業だが、中国では6月が卒業の月かとわかった。卒業したら日本語の勉強を活かした職業につきたいとか、日本にも行ってみたいとか、話しているうちに、教室の方に着いた。教室では校長先生の歓迎の挨拶や、校内の説明等あり、その後はこの周ちゃんと話をする機(おり)もなくそのまま別れて来てしまったが、この純情そうな小柄な娘さんが、どうか無事に卒業し、適当な職業を得て益々発展するであろう中国経済の大奔流の中で幸せを掴んで行って欲しいと願うや切である。

その後、重慶市の偉いさんとの歓迎会あり、ホテルの中の豪華な応接室で、重慶市の現状と将来の計画を聞く。その壮大さも先に見学した企画展覧館での説明と併せ考えると、さもありませんと思われる。

会談後別室に用意された食堂で四川料理の夕食となる。さすが重慶市のご招待である。豪華なものである。

夜街へ出て足浴マッサージにかかる。何となく中国風俗の一端にふれた感じ。

11月16日(木) 午前中磁気口街へ行く。むかしの中国の商店街の風情を堪能する。中国人、日本人、西洋人の観光客でごった返している。その後三峡博物館に行く。音に聞こえた天下の絶景の歴史と三峡ダム建設の実態を見る。三国志の旧跡の説明などを見て回るには時間が無さすぎる。もっと時間を取って欲しかった。

昼食後鶯嶺公園に行く。長い急坂を上って行くと頂上にお粗末な五重の塔が有る。上に登ると景色が良いよと勧められたが足に自信がないので登らない。塔の下の高台から嘉陵江を隔てて重慶市内方面のビル群を見る。40階50階の高層ビルが見渡すかぎり続いている。こんなに高層ビルを造ってどうするのかとってしまう程である。このビルの各棟にエレベーターを設置し各室に照明や冷暖房の設備を入れたらどれ程の電力を必要とするであろうか、三峡ダムの2つや3つで間に合うのかと他人事ながら心配になる。現在中国では多数の原子力発電所を建設中であると聞きます。おそらくはこれらの大電力を賄うためでしょう。

しかしながらこれらの高層ビルを外観から眺めるとどうも3分の1ぐらいしか入っていない様に見える。3分の2ぐらいは空室の様に思えるのは私の見間違いだろうか。

夕食後長江の夜景クルーズに出る。嘉陵江側の朝天門港の船着き場近辺は観光客や客引き、物売りなどで大混雑である。駐車場から船乗り場までの長い道のりを必死に歩く。乗船後すぐ長江に入り、約1時間のクルーズである。兩岸のネオンが明滅して大変綺麗であるが、良く見ていると何となくクルーズ観光客のために無理に点灯している様な感じがしないでもない。

11月17日(金) 朝食の後、同宿の寫さんと2人でホテル周辺の散歩に出る。街角のロータリー毎にダンスに興ずるグループを見る。1グループ単位平均10人~20人ぐらいの人数でロータリー毎に必ず数グループは居る。10数年前までの中国では毎朝広場という広場では太極拳をする大勢の人々を見かけたが、近頃はすっかり様変りをしている。しかも太極拳をする人は老人が多かったが



ダンスグループは若人ばかりである。街頭の道路わきや地下通路の階段の中段等に、小さな机に○の中に當の字を書いた看板を掛けて商売をしている男がいる。中国では○の中に當の字は質屋の看板だからこれは街頭でさまざまな物品をすぐに換金できる簡易な金融機関らしい。

午前中、洪崖洞民俗風情街を見る。昔の中国の建物の風情を味わう。

昼食後、重慶江北空港から西安へ。機上より見る四川盆地の上空は見渡すかぎり厚い白雲におおわれている。雲の切れ目などは何処にも見えない。昔から重慶や成都などの四川盆地は山深く霧深く年間を通して晴天の日はなんぼもないといわれる由縁が良く分る。

1時間半ほどで西安の咸陽空港に到着する。咸陽は秦の始皇帝の都した処である。さらに1時間半ほどで西安市内へ。夕食後ホテルへ。夜ガイドの案内で足浴マッサージに行く。重慶の時とほぼ同じである。全国共通の資格検査でもあるのかとってしまう。良く注意して見ていると重慶でも西安でも市内の各所に足浴の看板を見ることが出来る。中国全土に流行っているらしい。

11月18日(土) 午前中は西安観光のハイライト、世界遺産の兵馬俑坑見学である。広い敷地内にいくつもの展示場があり、全部見て回るのにガイドについて行くだけで忙しい。テレビで見ると違って実物は素晴らしい。

午後、青龍寺を見る。弘法大師渡唐の折修行の地なりと云う。現在のお寺はすべて日本の真言宗関係の寺院からの寄進に依って建てられたものである由、関係の寺院の名を刻んだ大きな石碑が建っている。仏教といえば中国が本場で今もさぞ盛だろうと思われるが、それがそうでもないそうである。有名な寺院も歴史的遺跡としての存在のみで、宗教としての活動はあまり無い様である。現在中国の宗教としてはキリスト教が多いとのことである。この青龍寺は中国の人はほとんど来ない様で他の観光地と比べても閑散としている。来観者はほとんど日本人である由。この日も神奈川の真言宗関係の団体の人が20人位来ていた。来観者の記帳所が有り、係の人がしきりに勧めるので、私も住所氏名を書き入れた。良く見ると日本人ばかりである。土産品売り場があり、私も記念に硯を一面買う。

山門の前の石畳の上にシートを敷いて座る3人の乞食を見る。昭和40年代の頃は中国をはじめ東南アジアの各国で乞食はよく見かけたが、近年はほとんど見かけない。あらお久しぶりと云ったところである。それにしても見事なメイキャップである。垢面、蓬髪、<sup>ぼろ</sup>襤褸をまとい、いざりながら左手に缶詰の缶を突き出して物を乞う態はまことに古典的スタイルである。思うに、今や希少価値となりつつあるこの様な物乞いが、日本人しか来ない青龍寺の門前で店を開いているというのは、現在の中国人はあまりこの手には喜捨する事少なく、日本人は良い稼ぎ相手なのだろうと思われる。

西安観光の最後に西安城壁を見る。ここがシルクロードの1丁目の由。城壁の上の両側に2つの高樓が有る。昔の人がこの高樓に於いて西域に旅立つ友人知人のために送別の宴を張った処と云

う。まさに盛唐の詩人王維が友人の西域に使いとして行くを送るとして「君に勸む更に尽くせ一杯の酒、西のかた陽関を出ずれば故人無からん」と詠んだは此処かと思えば感<sup>ひとしお</sup>一人である。

西安の旅はこれでおしまい。出来得ればあと一日ぐらい延ばして大雁塔、小雁塔、碑林、玄宗皇帝と楊貴妃のロマンスで知られる華清池、秦の始皇帝陵等も見たかったが、日程の都合で行けなかったのは残念。始皇帝陵などはバスの窓からはるかに望んだだけで、石岡辺から筑波山を見るぐらいだった。もっと麓まで行って良く見たかったです。

11月19日(日) 早朝より帰路に着く。西安より成田まで直航の予定が何かの都合で上海で乗り換えとなる一日がかり。でも全員無事で予定の時刻に水戸に着きました。係員の方々、団員の皆様、何かとお世話になりました。ありがとうございました。

# 重慶市を訪問して考えたこと

野田 弘行

重慶市は中国政府直轄市で長江と嘉陵江の合流点にある市街地は西南地域最大の商工業の中心で州の巴子国の都であり、日中戦争時は国民政府の臨時首都でした。面積8万2千平方キロ、人口3000万人超、都市圏は800万人です。

中国の物流の大動脈である長江沿岸に栄えた重慶は古くから水運が発達していましたが、三峡ダムの完成後は1万トン級の船舶も直接重慶まで航行できるようになり、併せて整備される

保税區との相乗効果で重慶港は内陸の国際ターミナルとして大きな発展が見込まれます。

高橋市長と重慶市副市長との対談で、副市長より重慶市のGDPは順調に伸長し今年度は2万億元を達成する旨の発言がありました。日系企業の工場も多数ありますが、最近ではITを駆使したサービス業も増加しています。

日本と重慶市との歴史的関係を考察するとき、1938年12月18日から1943年8月23日まで218回にわたる戦略爆撃を忘れてはなりません。

1931年9月18日奉天（現在の瀋陽）での柳条湖事件から始まる日中の対立は1937年7月7日北京郊外での盧溝橋事件、それに続く8月13日第二次上海事変によって日中は全面戦争に突入しました。



1937年11月20日蒋介石は首都を南京から重慶へ遷都することを宣言し、12月13日南京は陥落しました。そこで南京事件が発生しました。

重慶は国民政府の首都になり、また大韓民国臨時政府も上海から重慶に避難しました。

大本営は地上軍による重慶の攻略を計画したが、重慶が天然の要害の地である事や、兵站の問題もあって航空侵攻により敵の戦略中枢に攻撃を加えると共に、航空撃滅戦の決行を1938年12月2日中支那方面軍に指示を出しました。

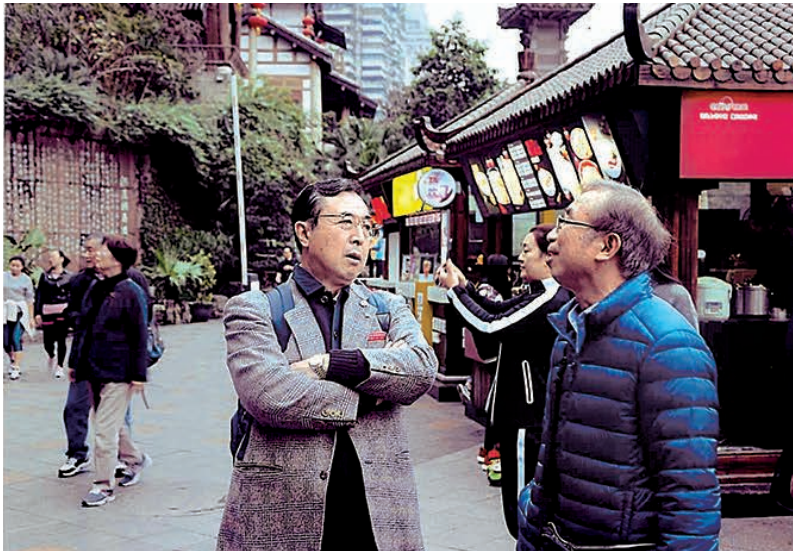
重慶爆撃で特に大規模な無差別爆撃が1940年5月17日から9月5日までの百一号作戦、1941年5月から8月までの百二号作戦でした。

重慶爆撃はアメリカなどの連合国による日本本土空襲や広島・長崎への原子爆弾投下の正当性の根拠として利用されました。また、日中戦争・第二次世界大戦と続くこの時期の世界戦争の中で、

1937年のゲルニカ爆撃に続く最初期の組織的な戦略爆撃に位置づけられています。

重慶爆撃は遥か80年以上昔の出来事ですが、加害者は忘れても被害者は忘れません！海外の人と交流する際にその国の歴史を知ることが大切なことです。「一衣帯水」この言葉は日中友好にとっては大切なことです。

私はこの言葉を拳拳服膺して、日中友好に微力ながら貢献したいと思っております。



# 再びの重慶、その変貌に中国の実態を見た

渡辺政明・静江

11月14日の深夜重慶市のホテルに到着、再びの重慶市友好親善視察の旅がはじまりました。女房とは8年ほど前に加藤前市長と共に訪れ、その時は長江「三峡下り」で三国志ゆかりの白帝城などを訪ねる楽しい思い出があり、また今回はメディアで報道されている近年の中国や重慶市の変化・発展を見聞する事にも大きな関心を持っておりました。

11月15日、重慶市人民政府への表敬訪問に続いた夜の歓迎会で重慶市副市長は、重慶市を拠点とした「一带一路」ニューシルクロード構想にもとづく、ドイツまでの「陸路」による鉄道路線、南沙諸島・インド洋・アラビア海・アフリカ経由大西洋への「海路」長江を下り上海から東シナ海・西太平洋への「河川路」の建設の進捗や、右肩上がりの貿易額など経済成長の実態を熱く語られ、本市には企業の進出や交易の拡大を希望されておりました。



3000万人を超える人口を持つ重慶市と27万人の水戸市では、その都市基盤も経済基盤も社会制度も全く異なり、その要望にはすぐには応えられないのが現実で、高橋市長は、水戸市が考える国際交流の在り方やこれまでの交流の経緯を述べられ、そして今回親善訪問した四川外国語大学の学生の日本への期待や思いなどを踏まえ、青少年間の交流の必要性や市民交流の成果などについて述べられておりました。

思い返せば、2000年の6月の重慶市友好交流都市提携合意書調印式に同席以来4回目の訪問となり、その合意書には、経済・文化・教育・スポーツなどの各分野での交流の推進と両市民の永遠の友情などが記されております。

重慶市は、この17年間に目覚ましい発展を遂げており、取り分け街を行きかう若者の服装や装飾品が東京の若者と変わらず、市民生活の向上も感じられ、行政努力なのか道路を気ままに横断する人や道端のゴミも少なく感じ市民のマナーの向上も伺えました。

また、新旧市街地区には30階を超える密集した集合住宅や多数の業務用ビルやホテルの建設が見られ、古い自転車や物を満載したリヤカーなどは見かけず、その代わりに自動車が飛躍的に増え高級外車も多数見受けられておりどこまで発展するのかと驚きました。

しかしながら、箱物行政が先行し狭くてくねくねした街路のままにビルが建設され、区画整理事業や街路の拡幅整備などは遅れ気味と思えました。

大中華思想に基づく膨張する国策と重慶市のそれは一致しており、今後の本市の交流の在り方や考え方にも大きな影響を与えそうで、また今回の市民の参加は8名と激減しており、市民交流の意義を含めリニューアルする時期がきていると強く感じました。

結びにあたり、国際交流やJTBの関係各位をはじめ参加者の皆様には大変お世話になりました。心よりの感謝と御礼を申し上げます。





# 日本と重慶の姉妹都市親善の発展を願って

中庭 次男

第8回友好交流都市重慶市親善訪問及び中国文化・行政視察団に初めて参加し、重慶市との親善を深めることができたことに、感謝しています。

まずおどろいたことは、重慶市の人口が3000万人をこす大都市であること、中国政府の直轄市であり、経済でも、行政でも重要な役割をはたしていることでありました。

いたるところに高層ビルが建設され、重慶市内各地に乱立している状況はバブル期ではないかと思うほどでした。このバブルがいつまでも続くのか関心のあるところです。



重慶市企画展覽館（未来館）も2日目に訪問しましたが、地下鉄の建設計画、高速道路の建設など、4つの山脈が囲まれた、重慶市の経済発展の今後の計画も興味深いものがありました。重慶市は、回りを山で囲まれた盆地にあり、川に恵まれた都市で、自然の要塞都市であったことがわかりました。

重慶市人民政府との表敬訪問では、副市長が応対してくれましたが、重慶市の予算規模が水戸市とは比べものにならないほど（重慶市の人口は水戸市の100倍）であり、日本の市の規模とは違うことを印象づけられました。

四川外国語大学日本語学部との交流では、卒業後の進路を質問しましたが、日本企業、官公庁などに就職していること、大学3年生から就職活動をおこなっていることも日本の大学生と同じで、就職先を見つけるのが大変だと思いました。



重慶で滞在したホテルでは、日本語放送のNHK国際放送がみられず、困りました。フロントに直してほしいとお願いすると、フロントの人がきて直りました。原因は、チャンネルの周波数が変更になっていたためでした。原因はわかりませんが、不可解なことでした。

また市内の道路のごみは専門の職員が配置され、綺麗に掃除されていることにも感心しました。

中国の大気汚染問題は深刻です。重慶、西安の大気はどんよりとして、日中でも太陽の日差しが感じられない時もありました。原因はトウモロコシの葉などのバイオマスの室内での焼却、さらに石炭の排ガス、自動車の排ガスなど、様々な原因が指摘されていますが、抜本的な対策が必要だと思いました。

さて、中国への旅行はこれまで、遼寧省の大連、瀋陽、撫順、黒竜江省のハルビン、牡丹江、江蘇省南京などをみてきました。ここでは戦前、日本軍部による侵略戦争の爪痕がのこっており、二度と戦争をしてはならないと痛感しています。

今回の重慶市訪問を通じて日中友好がさらに発展することを祈念しています。

## 第8回友好交流都市重慶市親善訪問及び 中国文化・行政視察報告

堀江 恵子

重慶市・西安市（中華人民共和国）を訪問する、第8回友好交流都市重慶市親善訪問及び中国文化・行政視察が行われ、参加をしてまいりました。

出発に当たり、市役所駐車場にて出発式が行われ、関係者や職員に見送られて9時に出発し、ほぼ予定時刻（22時25分）に重慶市に到着。迎いの車で空港を出発してまず初めに

目にしたのは、50m位の感覚で街灯が立ち並ぶ高速道路の明るさときらびやかな広告のネオン。熱源は、人工湖のダムと地熱ということです。

重慶市は1998年に中国の核心的都市として中央直轄市となり、三大工業の町、山の町として栄え、人口3200万人、なんと本市の100倍以上で、広大な土地、高層ビル群など、大型施設が立ち並ぶスケールの大きさに圧倒される思いでした。

揚子江（長江）と嘉陵江の合流地点に建設中のビジネスビル（2018年完成）や街中のいたるところで高層ビルや道路、橋の建設が進められ、習近平国家主席が進める政策、「一帯一路」新シルクロードの出発点としてふさわしい発展であると感じました。

四川外国語大学日本語学部の学生との交流会では3人の学生が発言し、「水戸市の特例市の位置付け」の質問や日本語の勉強の理由について「アニメで聞いた日本語は美しい言葉」「日本の大学院に進み先生になりたい」など話されました。日本のアニメは海外の人にも大きな影響力を持ち、観光やビジネス、留学などに益々寄与することを期待したいところです。その後、人民政府への表敬訪問が行われ、劉副市長は、観光や経済、貿易、企業進出などを話され、「人的文化交流は若い人の交流を進めて行きたい」「水戸少年サッカーとの交流ができればいい」など、市民感覚での話もされ



ました。文化やスポーツの交流は若い人に限らず、高齢者までもができるものでありますし、観光交流などを通じてお互いの文化や歴史、芸術、豊かな自然などを知る上でも貴重な体験となるものと考えられますことから、実現させていきたい施策だと思えます。

4日目、次の視察場所・西安へ。飛行機から降り立つと、霧がかかったような黒い空気。PM2.5に迎えられました。道路には散水車が水が撒かれ、土煙が舞い上がらないようにと

の処置でした。翌日にはPM2.5も減少し、世界遺産兵馬俑坑を視察。テレビや写真などで見知ってはいましたが、まだごく一部の修復しか進んでおらず、まだまだ未発掘場所が残されており、気の遠くなるような修復作業が続くようです。今後の修復や歴史的経緯の解明が進められることに期待したいと思います。

今回の視察最後となりましたのが青龍寺。弘法大師空海が仏法を学び、仏教の布教と同時に中国の文学、書道、天文、医学などの知識を日本に伝えたとされています。四国における弘法大師修行の遺跡八十八か所の霊場を巡るお遍路の第0番札所がここにあったことは知りませんでしたので、思い掛けなく視察ができ、個人的に八十八か所全てを制覇する機会をいただいたことに、更に今視察が実り多きものとなり、まことに感謝をいたします。

# 重慶市を訪問して

関谷 勇

はじめに、この度の友好交流都市重慶市親善訪問及び中国文化・行政視察団に参加をする機会をいただきましたことに、感謝申し上げます。

私は、中国の訪問は初めてでしたが、近年の中国の飛躍的な発展は、テレビ等の報道で知っているつもりでした。しかし、実際に重慶市内の空港に降り立ち、中心部のホテルに向かうバスの車窓から見た高層ビル群は、自分の想像を超え、驚き以外の何ものでもありませんでした。



3日間の滞在で、自分なりに理解し、また感じ取った重慶市をまとめてみると、まず、歴史は3,300年程あり、総面積は、北海道と同等の82,400k㎡、約3,392万人の人々が暮らし、都市圏人口は約800万人（中国第8位）とすべてがビッグサイズで、都市部には、鉄道、モノレール、地下鉄の交通網に加え、ドイツのデュイスブルクを結ぶ「渝新欧鉄道」も整備され、鉄道貿易（物流）の拡大にも積極的に取り組んでいるため、経済成長は好調で、前年比10%増と2桁の成長を見せており、今年も12月迄に見込まれるGDPは、2万億元とのことです。

まだまだ成長の余地があり、街並みもどんどん変化を遂げる、活気にあふれた都市という印象を強く受けました。

滞在中は、重慶市企画展覽館（未来館）の視察をはじめ、四川外国語大学日本語学部の学生との交流や重慶市人民政府への表敬訪問、さらには、磁器口古墳、三峡博物館及び洪崖洞民族風情街の見学など、盛り沢山の内容で十分堪能いたしました。

その中で、気付いた点を3つご紹介しますと、まず、市内ではあちらこちらで「渝」という文字を頻繁に見かけたことです。これは、市内を流れる川「嘉陵江」の古称で、重慶の略称としても用いられており、自動車のナンバープレートにも使用されています。



次に、滞在中、晴天の日が無かったことです。これは、年間を通して重慶は厚い雲に覆われており、中国で最も日照時間が少ない都市であるためです。

3つ目は、滞在2日目の昼食で頂きましたが、地元料理「火鍋（ホーグオ）」の発祥の地であることです。

これは、山椒とトウガラシがどっさり入り、グツグツ煮えたぎっている本場の激辛スープに、豚

肉、野菜、春雨等を入れて食べる鍋のことで、口に入れるとすぐに舌が痺れる程の辛さにも関わらず、地元の人々は涼しい顔をしているという、重慶の名物料理です。

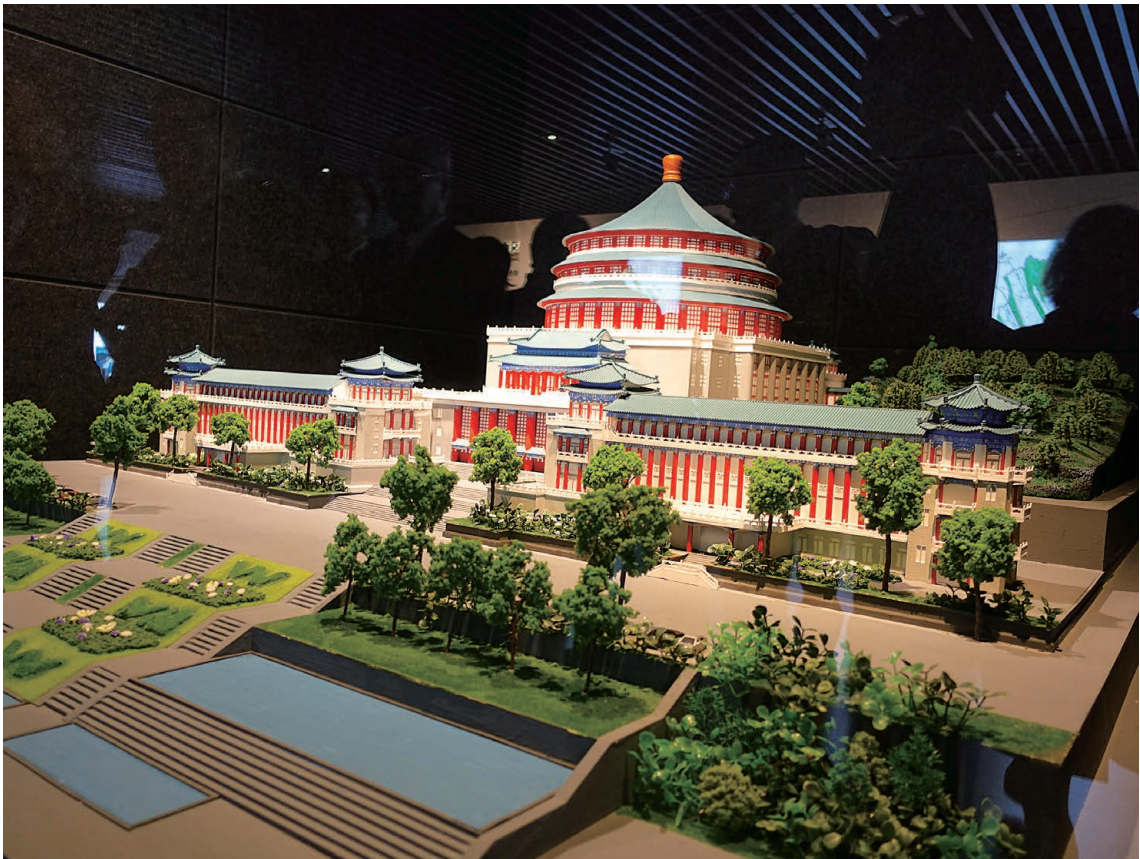
以上のように、今回の訪問は、私にとって大変刺激的で、また見るもの、聞くものが自分の概念に無いことばかりで、見聞を広めることができました。

今後ますます、重慶市と水戸市の友好交流が進展することを願うものです。

終わりに、訪問の行程中、親切に接して下さった本視察団の皆様には感謝を申し上げますとともに、人民政府表敬訪問時にご対応下さった劉副市長のご挨拶の中で印象に残った言葉をご紹介します、報告と致します。

**「重慶市と水戸市は、友好交流都市提携以来、親戚の付き合いをして来ました。しかし、私はこれに満足せず、より深い付き合いをして行きたい。」**

## 資料編



人民大礼堂模型（重慶市企画展覽館にて）

## 友好交流都市重慶市との交流の経緯

(平成29年10月現在)

### 【交流のきっかけ】

水戸市と重慶市との交流は、昭和60年(1985)3月に、孫平化中日友好協会副会長(当時)の水戸市への訪問がきっかけとなり始まった。訪問の折、孫平化氏は、水戸市役所敷地内で日中国交回復記念の植樹を行った。

また、同年5月には、つくば市にて開催中の科学技術博覧会視察のために来日中の中華全国総工会代表団が、また胡友華氏をはじめとする中国科学技術センター訪日団一行が水戸市を訪れている。

このような交流の中で重慶市との友好親善交流の話が進められ、水戸市の重慶市に対する友好的な考えが胡友華氏から重慶市長へ伝えられて、同年6月には、重慶市人民政府対外事務局副主任の辛玉氏から、佐川一信水戸市長(当時)に対して、友好親善交流の推進と訪中の誘いの書簡が届けられた。

翌年の昭和61年(1986)5月、佐川一信水戸市長(当時)を団長とする第1回水戸市中国行政視察友好訪中団が、北京市、重慶市、上海市を訪問した。北京市においては、中日友好協会会長の孫平化氏や北京市人民政府を表敬訪問して友好親善を深めるとともに、重慶市においては肖秧市長ほか多くの関係者と意見交換を行い、友好親善を深めた。一方、同年10月には、重慶市人民代表大会常務委員会副主任の白蘭芳氏を団長とする重慶市代表団が水戸市を訪れ、白蘭芳副主任が、水戸市議会議場にて挨拶を行った。

### 【全国緑化フェアの成功】

その後、両市の代表団が相互に訪問を重ねるなか、平成3年(1991)になって、翌々年に開催予定の全国都市緑化フェアへ重慶自然博物館所蔵の恐竜化石を出展することについての要請のために、水戸市の代表団が重慶市を訪問した。続いて平成4年(1992)には出展に関する交渉のため、そして、平成5年(1993)には恐竜化石の梱包を確認するため、それぞれ水戸市代表団が重慶市を訪問した。一方、この間、重慶市代表団も平成4年(1992)に2度水戸市を訪れ、平成5年(1993)には、重慶自然博物館の副館長や学芸員、更には重慶市文化局長ほかを訪れている。こうして、重慶市人民政府や重慶自然博物館、そして中国国家文物局の全面的な協力のもとに、水戸市が出展した「恐竜館」が多くの入場者を集め、第10回全国都市緑化フェアの成功に大きく寄与することになった。

### 【活発な人的交流、そして提携への動き】

緑化フェアの成功を経て、平成6年(1994)1月に、岡田広水戸市長(当時)を団長とする水戸市代表団が、恐竜展への化石出展の御礼と交流を深めるため、重慶市を訪問した。

その後、平成7年(1995)から11年(1999)にかけて、両市の間で、相互に人的な交流が進められるなか、平成11年(1999)11月に、重慶市人民代表大会常務委員会副主任の馮克熙氏を団長とする重慶市代表団が水戸市を訪問し、岡田広水戸市長(当時)との会談の中で、これまでの両市の交流の経緯を踏まえ、西暦2000年という節目の年に、友好関係を提携してはどうかとの話がなされた。

### 【「友好交流都市」の提携】

平成11年(1999)12月に、水戸市日中友好協会から、「重慶市と友好都市締結を求める請願書」が市議会へ提出され、採択されるとともに、平成12年(2000)3月の市議会定例会の本会議においては、重慶市との友好交流都市の提携についての議案が全会一致で可決される。

このような経緯を受けて、平成12年(2000)6月に、岡田広水戸市長(当時)を団長とする重慶市友好交流都市調印使節団71名が重慶市を訪問し、友好交流都市提携合意書の調印が行われた。



### 【友好都市へ向けた交流】

友好交流都市を提携し、新しい関係を築いた両市は、友好都市の提携に向けて様々な交流を行っている。相互訪問はさらに活発なものとなり、平成12年(2000)からこれまでに、水戸市からは7回の訪問団の派遣、重慶市からは9回の訪問団の来水があり、両市において交流を深めた。

相互訪問以外の事業として、平成14年(2002)、水戸市は緑化フェア恐竜館跡地に「重慶広場」を整備し、現在、広場は市民の憩いの場となっている。また、「中国・重慶展と国際交流のつどい」を開催、多くの市民が参加し、重慶市への理解と関心を深めることとなった。そのほか、同年夏、北京において開催された日中国交正常化30周年記念日中友好交流都市中学生卓球交歓大会に水戸市・重慶市合同チームが参加し、両市の中学生がスポーツを通し交流を深めた。

平成15年(2003)秋には、両市の小学生の絵画、書道作品を展示する「水戸・重慶友好交流都市児童書画展覧会」が水戸市国際交流センターで開催され、多くの水戸市民の目を楽しませた。

重慶市においては、平成16年(2004)5月に、重慶市労働人民文化宮において「重慶市と広島市及び水戸市との友好交流展示会」が開催され、多くの重慶市民が水戸市の児童の書画作品や街の様子を伝える写真パネルなどを通して、水戸市について理解と関心を深めている。

平成20年(2008)には、水戸市水道部職員が、水道事情の調査を目的として重慶市等を訪問、技術部門の交流の実現に向けて取り組んでいる。

平成21年(2009)には、水戸市市制施行120周年を記念して、アナハイム市及び重慶市の関係者を迎え、これからの姉妹都市交流について考えるシンポジウムを水戸市国際交流センターにおいて開催し、重慶市側からもパネリストが参加している。シンポジウムでは、「市民主導の交流」をテーマとして、水戸市、アナハイム市、重慶市を代表するパネリストに加え、一般の市民も交えながら、活発な議論や意見交換がなされた。

平成29年(2017)には、北京において開催された日中国交正常化45周年記念日中友好交流都市中学生卓球交歓大会に水戸市・重慶市合同チームが参加し、両市の中学生がスポーツを通し交流を深めた。

## 両市の交流年表

| 年           | 水戸市からの訪問  | 重慶市からの訪問   |
|-------------|---|--|
| 昭和60年(1985) |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・孫平化中日友好協会副会長が来水。</li> <li>日中国交回復記念植樹を行う。</li> <li>・中国科学技術センター訪日団が来水。</li> <li>水戸市との友好関係を望み、市長の訪中を期待する旨の文書が届く。</li> </ul> |
| 昭和61年(1986) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川市長(団長),川津議員(副団長)ほか6名が重慶市を訪問。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・白蘭芳重慶市人民代表大会常務委員会副主任(団長)ほか2名の代表団が来水。</li> </ul>  |
| 昭和62年(1987) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小林議員(団長),大野収入役(副団長)ほか4名が重慶市を訪問。</li> </ul>  |  |
| 昭和63年(1988) |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・楊東喬重慶市科学技術委員会主任ほか5名の代表団が来水。</li> </ul>   |
| 平成2年(1990)  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄梅重慶市人民代表大会常務委員会副主任ほか5名の代表団が来水。</li> </ul>   |
| 平成3年(1991)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重慶市長に恐竜化石の展示を要請するため作山助役(団長),福島議員(副団長)ほか3名が重慶市を訪問。</li> </ul>  |  |
| 平成4年(1992)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・恐竜展交渉のため都市計画部長ほか1名が重慶市を訪問。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・楊学君政治協商会議重慶市委員会副主席ほか3名の代表団が来水。</li> <li>・章必果重慶市副市長ほか3名の代表団が来水。</li> </ul>  |
| 平成5年(1993)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・恐竜展の梱包確認のため飯村助役(団長)ほか5名が重慶市を訪問。</li> <li>・全国都市緑化いばらきフェア「恐竜展」開催</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鍾志楷重慶自然博物館副館長ほか7名が来水。</li> <li>・李華年重慶市文化局長ほか4名の代表団が来水。</li> </ul>  |
| 平成6年(1994)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・恐竜展答礼のため岡田市長(団長),綿引議長(副団長)ほか29名が重慶市を訪問。</li> </ul>  |  |
| 平成7年(1995)  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・劉文重慶市人民政府顧問ほか1名の代表団が来水。</li> <li>・寶瑞華重慶市人民政府副市長ほか3名の代表団が来水。</li> </ul>   |
| 平成8年(1996)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際文化課長が重慶市を訪問。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・于漢卿重慶市人民代表大会常務委員会主任ほか5名の代表団が来水。</li> </ul>   |
| 平成10年(1998) |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・魏司鋒重慶市人民政府外事弁公室副主任ほか1名の代表団が来水。</li> </ul>  |
| 平成11年(1999) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小林助役(団長),森議長(副団長)ほか2名が重慶市を訪問。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・馮克熙重慶市人民代表大会常務委員会副主任ほか3名の代表団が来水。</li> </ul>  |
| 平成12年(2000) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡田市長(団長),高橋議長(副団長)ほか69名が友好交流都市調印使節団として重慶市を訪問(第1回)。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・李学拳重慶市人民政府高級顧問(シニアアドバイザー)ほか5名の代表団が来水。</li> </ul>   |
| 平成13年(2001) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画課長補佐ほか2名が青少年交流団派遣事業事前調査のため重慶市を訪問。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・陳騰傑重慶市農業総合開発弁公室副主任ほか10名の農業総合開発視察団が来水。</li> <li>・陳高山重慶市人民政府外事弁公室副主任ほか6名の友好交流団が来水。</li> </ul>                              |
| 平成14年(2002) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・友好交流都市提携1周年記念『中国・重慶展と国際交流のつどい』を開催。</li> </ul>   |  |
| 平成15年(2003) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水戸重慶友好交流都市児童書画展覧会を開催。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄立沛重慶市政治協商会議副主席ほか6名の代表団が来水。</li> </ul>   |
| 平成16年(2004) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤市長(団長)ほか29名の訪問団が重慶市を訪問(第3回)。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・税正寛重慶市人民代表大会副主任ほか8名の代表団が来水。</li> </ul>   |
| 平成17年(2005) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア太平洋都市サミット出席のため福島議員(団長)ほか3名が重慶市を訪問。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・魏司鋒中日交流合作促進会長ほか1名の代表団が来水。</li> </ul>   |
| 平成18年(2006) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤市長(団長)ほか31名の訪問団が重慶市を訪問(第4回)。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・孫賢元重慶市人民代表大会常務委員ほか7名の代表団が来水。</li> </ul>  |
| 平成20年(2008) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤市長(団長)ほか25名の訪問団が重慶市を訪問(第5回)。</li> </ul>   |  |
| 平成21年(2009) |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・呉昌徳重慶市政治協商会議弁公庁副庁長他6名の代表団が来水。</li> <li>・呉昌徳訪問団団長が市制施行120周年記念「国際姉妹都市交流シンポジウム」出席</li> </ul>                                |
| 平成23年(2011) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋市長(団長)ほか16名の訪問団が重慶市を訪問(第6回)。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・朱晞顔重慶市人民政府外事僑務弁公室主任他3名の代表団が来水。</li> </ul>  |
| 平成24年(2012) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中国交正常化40周年記念日中友好交流都市中学生卓球交歓大会(北京市)に、重慶市とともに選手団を派遣。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄茜重慶同郷会会長が来水。</li> </ul>   |
| 平成27年(2015) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島市議(団長)ほか20名の訪問団が重慶市を訪問(第7回)。</li> </ul>   |  |
| 平成29年(2017) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中国交正常化45周年記念日中友好交流都市中学生卓球交歓大会(北京市)に、重慶市とともに選手団を派遣。</li> <li>・高橋市長(団長)ほか15名の訪問団が重慶市を訪問(第8回)。</li> </ul> |  |

## 日本国水戸市・中華人民共和国重慶市 友好交流都市提携合意書

日本国茨城県水戸市と中華人民共和国重慶市は、日中両国政府による共同声明の精神及び日中平和友好条約にのっとり、平和友好、平等互惠、相互信頼、長期安定の原則に基づき、両市民の永遠の友情及び両市の友好協力関係を更に発展させ、アジア及び世界の平和に貢献するため、両市の友好交流都市提携について下記のとおり合意した。

- 1 両市は、経済、文化、教育、スポーツをはじめ、各分野にわたって広範な交流を進め、併せて両市の民間交流活動を積極的に推進する。
- 2 両市は、これらの交流を基礎として、今後友好都市締結に向けて努力する。
- 3 両市は、それぞれの担当窓口を指定し、これらの窓口を通して具体的な交流項目を策定し、実施する。
- 4 本合意書は、同等の効力を有する日中両国語により作成し、水戸市議会及び重慶市人民代表大会常務委員会双方の承認をもって効力を発するものとし、水戸市と重慶市双方が各自1通を保持する。

2000年6月6日

日本国

水戸市長

岡田 広

水戸市議会議長

高橋 文夫

中華人民共和国

重慶市長

白敏文

重慶市人民代表大会

常務委員会主任

符 存

# 訪問都市のプロフィール

## 重慶市

人口約3000万人（水戸市の約100倍）を誇る、中国最大の都市。1997年に四川省から独立し、北京・天津・上海に続く4番目の直轄市（省と同格）となりました。中国西南部最大の商工業の中心地で、長江上流の経済の中心地です。市街区は長江と嘉陵江の合流地点にあり、四方は山に囲まれ、山城、江城、霧の都、とも呼ばれます。

昭和60年（1985年）、孫平化中日友好協会副会長（当時）が水戸市を訪問したことをきっかけに、相互に訪問を重ねました。とりわけ平成5年（1993年）に水戸市で開催された第10回全国緑化フェアに、重慶自然博物館所蔵の恐竜化石の展覧を重慶市に要請し、重慶市人民政府や中国国家文物局などの支援を得て水戸市が展覧した「恐竜館」が多くの入場者を集めたことを契機に両市の人的交流が進みました。

平成11年（1999年）の重慶市からの訪問団が水戸を訪れた際、それまでの交流の経緯を踏まえ、西暦2000年の節目に友好関係を締結することが提案され、翌平成12年（2000年）3月、市議会定例会の本会議で、友好交流都市提携についての議案が満場一致で可決されました。同年6月に岡田広市長（当時）を団長とする使節団が重慶に派遣され、友好交流都市提携合意書の調印が行われました。それ以降、相互に訪問団を派遣するなど交流は続けられ、水戸市からの訪問団派遣は今回で8回目となります。



## 西安市

かつては「長安」「大興」などとも呼ばれ、中国歴代諸王朝の都として栄えました。その長い歴史を反映し、豊富な文化遺産や観光資源を誇ります。現在も、中国西部最大の都市として政治・経済に重要な位置を占め、また1992年の開放都市指定以来、ユーラシア大陸の連絡路となっています。



# 平成29年度 第8回友好交流都市重慶市 親善訪問及び中国文化・行政視察団派遣 団員募集要項

- 1 目的 国際交流推進事業の一つとして、友好交流都市である重慶市及び中国の主要都市へ訪問団を派遣し、相互理解と友好親善を深め、国際的視野にたった人材の育成を目指すとともに、市民相互の交流を促進する。
- 2 主催 水戸市、公益財団法人水戸市国際交流協会
- 3 期間 平成29年11月14日(火)～11月19日(日) (6日間)
- 4 訪問先 重慶市・西安市
- 5 派遣人員 30人(うち一般市民は20人、先着順)
- 6 主な活動 ・重慶市及び主要都市の文化・行政視察並びに施設見学  
・重慶市人民政府表敬訪問及び歓迎行事参加
- 7 事前研修(結団式) 10月20日(金) 18:00～20:00 水戸市国際交流センター(渡航説明会含)
- 8 事後研修(解団式) 11月29日(水) 18:00～19:30 水戸市国際交流センター
- 9 応募資格 (1) 本人または家族が、応募時点で水戸市に居住している方  
(その他協会が必要と認める方)  
(2) 国際交流に関心を持ち、友好親善に努めたい方  
(3) 健康で協調性に富み、実施計画に従って規律ある団体行動ができる方  
(4) 事前・事後研修を含めて全日程参加できる方  
(5) 帰国後もこの経験を生かし、本市の実施する国際交流推進事業に積極的に参加できる方
- 10 旅行取扱 本事業における旅行部分については、当協会と取扱旅行会社の受注型企画旅行契約により実施します。

11 応募方法 別紙参加申込書に必要事項を記入のうえ、証明写真(パスポートサイズ4.5×3.5cm)及びパスポートコピー(ある方のみA4サイズで)を添えて**8月25日(金)から9月28日(木)までに**、水戸市国際交流協会まで持参又は郵送で、お申し込みください(FAX不可)。期間内でも定員になり次第、締め切ります。

参加申込書は協会ホームページからもダウンロードできます。

水戸市国際交流協会(午前9時～午後9時)

※毎週月曜日休館

〒310-0024 水戸市備前町6-59 水戸市国際交流センター内

TEL:029-221-1800 URL:<http://www.mitoic.or.jp>

12 参加費用 約210,000円(うち50,000円を協会が補助します)

※上記費用に**燃油サーチャージは含みません**。

※最終参加人数により、費用が多少変動する場合がございます。

・参加費用に含まれる主なもの

航空運賃(エコノミークラス)及びバスなどの運賃料金、観光料金、宿泊料金、日程記載の食事料金、傷害死亡・後遺傷害保険など

・参加費用に含まれない主なもの

渡航手續関係諸費用、オプションツアー代金、個人的性質の諸費用、超過手荷物運搬料金、一人部屋追加料金(25,000円)、ビジネスクラス追加料金(申込み時期によって料金が異なります。詳細については、お問い合わせください)、海外旅行保険(個人用任意保険)など

・部屋割りについて

お一人でのお申し込みで相部屋希望の方は、調整が付けば相部屋となりますが、できない場合はシングル利用となり、**追加代金(25,000円)**をいただきます。

13 派遣者の取り消し ・派遣決定後であっても、応募資格の虚偽報告及び不適格と認められる行為や事実があった場合は資格を取り消すことがあります。その場合に発生するキャンセル料は本人負担となります。

・出発後の取り消しは団長が行ないます。この場合における損害等の賠償責任は、一切取り消された該当者本人となります。

14 取消し料 10月15日(日)以降の参加取消しについては、旅行約款に基づき、該当者本人に相応の取消し料負担が生じます。(10月15日以降は旅行代金の20%、11月12日以降は50%、旅行開始後は全額)

15 その他 ・申込書に記入いただいた個人情報(氏名、住所、電話番号など)は、申込者間との連絡や本事業における運送・宿泊機関等の提供するサービス手配のための手続きに必要な範囲内で、利用いたします。

・本事業は、参加者の安全を最優先としますので、今後の国際情勢によっては、参加決定後でも変更または中止する場合があります。

## 16 問い合わせ

### ◆本事業に関すること

公益財団法人水戸市国際交流協会（開館時間：午前9時～午後9時）

※毎週月曜日、9/19（火）、10/10（火）は休館

〒310-0024 水戸市備前町6-59 水戸市国際交流センター内

TEL：029-221-1800 URL：<http://www.mitoic.or.jp>

### ◆旅行取扱に関すること

株式会社JTB関東法人営業水戸支店（観光庁長官登録旅行業第1578号）

〒310-0803 水戸市城南1-1-6 サザン水戸ビル2F

TEL：029-225-5233 FAX：029-226-4017

# 重慶市訪問団員募集

期 間：11月14日(火)～11月19日(日) (6日間)

訪問先：重慶市・西安市(中華人民共和国)

## 第8回重慶市親善訪問及び中国文化・行政視察団

水戸市の友好交流都市である、中国・重慶市に親善訪問団を派遣いたします。  
今回は、かつて長安と呼ばれた古都であり、中国西部最大の都市である西安市も視察します。

主な内容：重慶市人民政府表敬訪問、現地大学生との交流、  
始皇帝陵・兵馬俑見学、現地日系企業視察など



重慶

西安

受付期間：8月25日(金)～9月28日(木)

募集人員：20人

申込方法：募集要項に基づき、所定の参加申込書・必要書類を持参または郵送

※募集要項・参加申込書は、水戸市国際交流センター、水戸市役所(文化交流課)、市民センター等にあり。また、水戸市国際交流協会ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.mitoic.or.jp/>

申込み・問合せ：水戸市国際交流協会(水戸市国際交流センター内)

(月曜休館) 〒310-0024 水戸市備前町6-59 Tel: 029-221-1800

主催：水戸市・公益財団法人水戸市国際交流協会

旅行取扱：株式会社JTB 関東法人営業水戸支店(観光庁長官登録旅行業第1578号)



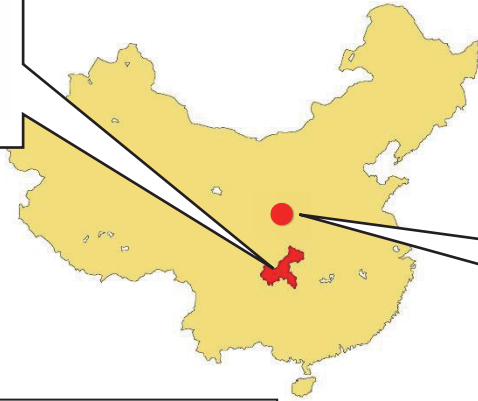


## 重慶市

人口約 3,000 万人（水戸市の約 100 倍）を誇る、中国最大の都市。1997 年に四川省から独立し、北京・天津・上海に続く 4 番目の直轄市（省と同格）となりました。中国西南部最大の商工業の中心地で、長江上流の経済の中心地です。

昭和 60 年(1985 年)、孫平化中日友好協会副会長(当時)が水戸市を訪問したことをきっかけに、相互に訪問を重ねました。とりわけ、平成 5 年(1993 年)に水戸市で開催された第 10 回全国緑化フェアに、重慶自然博物館所蔵の恐竜化石の出展を重慶市に要請し、重慶市人民政府や中国国家文物局などの支援を得て水戸市が出展した「恐竜館」が多くの入場者を集めたことを契機に両市の人的交流が進みました。平成 11 年(1999 年)の重慶市からの訪問団が水戸を訪れた際、それまでの交流の経緯を踏まえ、西暦 2000 年の節目に友好関係を締結することが提案され、翌平成 12 年(2000 年)3 月、市議会定例会の本会議で、友好交流都市提携についての議案が満場一致で可決されました。同年 6 月に岡田広市長(当時)を団長とする使節団が重慶に派遣され、友好交流都市提携合意書の調印が行われました。それ以降、相互に訪問団を派遣するなど交流は続けられ、水戸市からの訪問団派遣は今回で 8 回目となります。

# 重慶



# 西安

## 西安市

かつては「長安」「大興」などとも呼ばれ、中国歴代諸王朝の都として栄えました。その長い歴史を反映し、豊富な文化遺産や観光資源を誇ります。現在も、中国西部最大の都市として政治・経済に重要な位置を占め、また 1992 年の開放都市指定以来、ユーラシア大陸の連絡路となっています。



第8回友好交流都市重慶市  
親善訪問及び中国文化・行政視察団報告書

発行日 平成30年2月

公益財団法人水戸市国際交流協会  
水戸市備前町6-59 電話029-221-1800  
※今回の報告書に関するお問合せはこちらへ